

第二編 各 論

第三章 海軍問題

目次

第三章 海軍問題	二〇七
第一節 總說	二〇七
第一項 海軍委員會構成及議題	二〇七
第二、構成	二〇七
第二、議題	二〇七
第二項 審議經過及現狀	二〇九
第一、審議ノ經過	二〇九
第二、審議ノ結果	二一〇
第二節 質的軍縮問題	二一二
第一項 序說	二一二
第一、討議ノ概況	二一二
第二、一般討議	二一二
第三、各兵器ニ關スル具體的討議	二一四
第二項 主力艦、航空母艦及潛水艦ニ關スル主要國ノ態度	二一六
第一、主力艦	二一六
第二、航空母艦	二一九

第三、潛水艦	一一三
第三項 報告書ノ作成及確定	一二六
第一、起草分科會	一二七
第二、報告書作成ノ方針	一二七
第三、起草分科會討議ノ際起レル主要問題	一二〇
第四、報告書ノ確定	一二三
第四項 報告書ノ大要	一二四
第一、序論、主力艦航空母艦及潛水艦	一二四
第二、自働觸發機雷及河川用軍艦	一二四〇
第三節 專門諸問題	一二四一
第一項 制限外艦船	一二四一
第二項 定義	一二四五
第三項 代換規則	一二五〇
第四項 艦船ノ處分規則	一二六四
第五項 一般規定其ノ他	一二六七

第三章 海軍問題

第一節 總 說

本章ニ於テ記述セントスル海軍問題ハ海軍委員會若ハ其ノ設置セル小委員會又ハ分科會等ノ取扱ヘル範圍ノ海軍問題ニシテ一般委員會又ハ其ノ他ニ於テ取扱ヘル場合例ヘハ一般委員會ニ提出セラレタル六月二十二日ノ米國提案（第一編第二章第七節）、七月七日ノ英國提案（同第七節）及私的會談（同第八節）等ニ包含セラルル海軍關係事項ハ之ヲ當該部分ニ讓レリ

第一項 海軍委員會ノ構成及議題

第一、構 成

海軍委員會ハ一九三二年二月二十五日ノ一般委員會ニ於テ設置セラレ同月二十六日ノ幹部會ノ勸告ニ基キ翌二十七日第一回會議ヲ開キ議長ノ選任ヲ了シ三月九日第二回會議ニ於テ副議長二名及報告者一名ヲ選任シ以テ同委員會幹部會ノ構成ヲ了セリ海軍委員會ハ五月九日起草分科會ヲ設置シ質的軍縮ニ關スル一般委員會ヘノ報告書起草ニ當ラシメ（註一）又六月三日小委員會ヲ設ケ代換規則、艦船ノ處分規則及制限外艦船ノ審議ニ當ラシメタリ（註二）

（註一） 起草委員會ハ日、英、米、佛、伊、獨、蘇、亞、西、芬、蘭、波十二國ノ委員ヲ以テ組織ス

（註二） 小委員會ハ日、英、米、佛、伊、獨、蘇、伯、洪、蘭、波、羅、瑞、芬十四國ノ委員ヨリ成リ起草分科會ニ非スシテ幹部會ヲ助ケ爾來討議中懸案トシテ殘存セル事項ヲ討議シ能フヘクシハ之ヲ決定スル委員會ナリ（報告書ハ便宜ノ爲作成セリ）

第二、議 題

一、議題ノ分配

海軍委員會ハ海軍關係事項ニシテ一般委員會カ主義ノ問題トシテ決定ヲ了シタル問題若ハ一般委員會カ主義上ノ見地ヨリ

スル豫備的討議ヲ要セサル問題ヲ討議スルノ權限ヲ有ス(第一編第二章第三節議題ノ部參照)ル處同委員會ハ先ツ討議ノ順序ヲ決定スル爲三月九日第二回會議ニ於テ一般委員會ヨリ海軍委員會ノ擔當事務トシテ割當テラレタル議題(Conf. D./103)ヲ審議シタルカ其ノ際右權限ヲ考慮ニ入レ議題ヲ(イ)海軍委員會ニテ直ニ討議シ得ヘキモノ及(ロ)一般委員會若ハ他ノ委員會ニ先議セシムルヲ便トスルモノトノ二種ニ類別スルノ要アルヲ認メ海軍委員會ノ幹部會ヲシテ諸全權部ト協力シ右議題ノ類別及討議ノ順序ヲ決定シ委員會ニ報告セシムルコトトセリ

(註) 右三月九日ノ會議ニ於テ米國委員ハ議題整理ノ小分科會ノ設立ヲ提議シ英、獨委員等ノ贊同ヲ得タルモ佛國委員ハ特定國ノミノ小分科會ヲ設クルハ他國ノ不滿意ヲ買フ慮アリトノ總旨ヨリ海軍委員會ノ幹部會ヲシテ之ニ當ラシムルコトヲ提言シ 議長モ 幹部會カ諸全權部ノ協力ヲ得テ右整理ニ當ル用意アルコトヲ述ヘ伊、佛委員ノ贊成アリ本文記載ノ如ク決シタル次第ナリ尙米國委員ハ議題中ニハ陸軍若ハ空軍委員會ヲシテ先議セシムルヲ可トスルモノアリトノ説明ヲ與フルニ當リ一例トシテ航空母艦ニ關スル決定ハ航空機ニ關スル空軍委員會ノ決定如何ニ懸ルモノナリト述ヘタリ

右決定ニ基キ幹部會ハ三月十日會合シ一ノ報告ヲ作成シ之ヲ三月十四日ノ海軍委員會ニ提出シ其ノ儘採擇セラレタリ(Conf. D./C.N./2)其ノ要綱左ノ如シ

(イ) 海軍委員會擔當議題中1乃至3ハ陸軍委員會ノ討議ヲ待ツコト21及22ハ1乃至3討議後ニ讓ルコト
(ロ) 4乃至9及12ハ一般委員會ニ同附シ其ノ先議ニ附スルコト18ハ上記789決定ノ後ニ讓ルコト25ハ上記12決定後ニ讓ルコト(註一)

(ハ) 20ハ國防費委員會ノ討議ヲ待ツコト23ハ上記20討議後ニ讓ルコト
(ニ) 海軍委員會ハ直ニ101113141516171924ヲ討議スルコト

二、海軍委員會即時討議事項順序(Conf. D./C.N./3)

1. (前項第10) 條約案第十七條(條約規定ノ制限ヲ超ユル艦船ノ建造取得等ノ禁止)
2. (同 11) 條約案第十八條(代換規則)
3. (同 13) 條約案第二十條(戰爭ノ場合他國ノ爲建造中ノ軍艦ノ使用)

4. (同 14) 條約案第二十一條(軍艦讓渡)
5. (同 15) 條約案第二十二條(艦船ノ處分規則)
6. (同 16) 條約案第二十三條(「ハルク」若ハ練習用施設)
7. (同 17) 條約案第一附屬書(制限外艦船)
8. (同 19) 條約案第三附屬書(定義)(註二)
9. (同 24) 條約案第三十四條(軍艦建造ニ關スル通知)

(註一) 海軍委員會議長ハ三月十四日附書翰ヲ以テ一般委員會議長ニ對シ同日海軍委員會ノ採擇セル右二文書(Conf. D./C.N./2及同3)ヲ移譲シ且華府及倫敦條約締結國以外ノ國ハ一萬噸ヲ超ユル艦船ヲ建造取得セサルコトニ關スル亞國提案及公海ニ於ケル機雷敷設ノ禁止ニ關スル和國提案モ又一般委員會ノ先議ヲ要スルモノト海軍委員會幹部會ニ於テ考フル旨ヲ通知セリ一般委員會ハ四月十八日右諸點ヲ全部其ノ議題中ニ包含セシムルコトヲ決定セリ

(註二) 定義ノ問題ハ一應海軍委員會ニ於テ直ニ討議スル題目中ニ加ヘラレ海軍委員會ハ之ヲ討議ヲ開始セルモ(三月十五日海軍委員會ニ於ケル定義ニ關スル決定參照)本問題ハ三月十四日海軍委員會カ一般委員會ニ同附セル問題(主力艦、航空母艦、潜水艦等)ト併セ一般委員會ニ於テ先議スルヲ可ナリト認メ議長ヨリ其ノ旨一般委員會ニ要請シタル處之又四月十八日ノ一般委員會ニ於テ其ノ議題中ニ包含セシムルコトニ決定セリ
(註一及註二付テハ第一編第二章第三節議題ノ部參照)

第二項 審議經過及結果

第一、審議ノ經過

海軍委員會ハ一九三二年二月二十七日第一回會議(「ヘンダソン」氏司會)ニ於テ議長ヲ選任シ三月九日第二回會議ニ於テ副議長及報告者ノ選任ヲ了シタル後議題ノ討議ニ入り三月十四日第三回會議ニ於テ議題ヲ採擇スルト共ニ右議題中海軍委員會ニ於テ直ニ討議シ得ヘキモノ、實質的討議ヲ開始シ三月十七日第五回會議迄ニ條約案第十七條(條約規定ノ制限ヲ超ユル艦船ノ建造及取得等ノ禁止)同第二十條(戰爭ノ場合他國ノ爲建造中ノ軍艦ノ使用)及同第二十一條(軍艦讓渡)ヲ議了シ條約案第二編乙章第三附屬書(定義)及同第十八條並ニ第四附屬書(代換規則)ヲ討議シ復活祭休暇ニ入レリ

右休暇後四月二十六日第六回會議ヨリ海軍委員會ハ「サイモン」決議案ニ依ル質的軍縮ノ問題ヲ審議シ前後三回ヲ一般討議ニ其ノ後五回ヲ主力艦、航空母艦、潛水艦、機雷、河用艦船ノ個別的討議ニ充テ次テ此等討議ノ結果ヲ一般委員會ニ報告スル爲起草分科會ヲ設ケ報告書起草ニ當ラシメタル處議容易ニ纏マラス前後十二回ノ會合ヲ重ネタル後漸ク各國ノ意見ヲ羅列セル報告案ヲ得五月二十七日ノ海軍委員會第十五回會議ニ於テ採擇セラレタリ

五月三十一日第十六回以後ノ海軍委員會ハ復活祭休暇前ト同様專門的事項即チ條約案第四附屬書（代換規則）同第五附屬書（艦船ノ處分規則）第一附屬書（制限外艦船）ノ討議ヲ開始シタルモ諸問題ニ互リ意見ノ相違少カラス爲ニ小委員會ヲ設ケ且少數海軍國間ニ懇談ヲ行ヒタルモ（小委員會ハ六月七日及十日會合、懇談會ハ六月四日、八日及九日會合ス）妥結ヲ得ス仍テ小委員會ハ討議ノ現狀ヲ其ノ儘報告セサルヲ得サルニ至レリ右報告書ハ六月十一日第二十回海軍委員會ニ提出セラレタルカ多クノ未決點ヲ有スルヲ以テ同委員會ハ之ヲ採擇スルヲ得ス單ニ丁承スルニ止メタリ

海軍委員會ハ右ニテ直ニ討議シ得ヘキ事項全部ヲ議了セル處夏期休暇前一般委員會ヨリ何等新ナル指令ナカリシヲ以テ其ノ後何等ノ審議ヲナスコトナカリキ

第二、審議ノ結果

質的軍縮ニ關シ報告書ヲ提出セルコトハ別トシ海軍問題審議ノ現狀ヲ略述スルニ左ノ如シ

（一）制限外艦船（第一附屬書）

條約案第一附屬書（イ）排水量低下	審議延期
同上（ロ）ノ（一）備砲口徑低下	審議延期
同上（ロ）ノ（四）速力低下	審議延期
同上（ハ）ノ（一）備砲口徑低下	審議延期
同上（ニ）其ノ他ノ修正	審議延期

右ノ外條約案ノ通但シ右諸項決定ノ影響ヲ受ク

（二）定義（第三附屬書）

數字ニ觸レス文言ノミ全部一應條約案ノ通採擇

（三）代換規則（第四附屬書）

條約案第二項冒頭 艦齡起算點ノ變更	更ニ審議、但シ一應條約案ノ通
同上 第二項（ロ）航空母艦々齡	同上（帝國留保蘇國留保）
同上 第三項 大型艦建造期間ノ延長	同上（帝國留保）
其ノ他全部一應決定	

（四）艦船ノ處分規則（第五附屬書）

條約案第五附屬書第一款（イ）廢棄期間ノ延長	更ニ審議、但シ一應條約案通
同上第五款練習用ノ爲保有セラシ、艦船	審議延期
其ノ他全部決定	

（五）一般規定其ノ他

（イ）條約案第十七條	條約案ノ通決定
（ロ）同 第十八條	同
（ハ）同 第二十條	同
（ニ）同 第二十一條	同
（ホ）同 第二十二條	修正ニ決定
（ヘ）同 第二十三條	審議延期

(ト) 同 第三十四條

條約案ノ通決定

第二節 質的軍縮問題

第一項 序 說

第一、討議ノ概況

四月二十二日一般委員會ノ決議ニ依リ海軍委員會ニ附託セラレタル所謂質的軍縮問題即チ海軍兵器中(1)特ニ最モ攻撃の性能ヲ有スルモノ若ハ(2)國防破壊ニ最モ有效ナルモノ若ハ(3)非戦闘員ニ最モ脅威的ナルモノヲ選擇スルノ問題ハ四月二十六日第六回海軍委員會ニ於テ初メテ討議セラレ五月二十七日第十五回海軍委員會ニ於テ採擇セラレタルコト前節記述ノ通ナルカ如何ナル艦船及如何ナル海軍兵器カ所謂質的軍縮ノ對象タルヘキヤハ本年二月本會議開會當初ノ一般討議及各國ノ提案等ニ依リテ早クヨリ窺知スルコトヲ得タル所ナリ之海軍委員會ニ於ケル本問題ノ審議力當初ヨリ具體的且實際的色彩ヲ帶フルニ至レル所以ナルト同時ニ極メテ迅速ニ(五月九日)終結セル所以ナリ尤モ海軍委員會カ票決ニ依リ各問題ニ對シ結論ヲ與ヘントセサリシコトモ討議ノ迅速ナル終結ニ與テ力アルコト勿論ナリト雖モ一定武器ノ廢止ヲ目標トスル重大問題ニ對シ短期日內ニ一ノ結論ニ到達センコト殆ト不可能ナルヘキカ故ニ海軍委員會ノ取レル議事進行ノ方法ハ蓋シ已ムヲ得サリシ所ト言ハサルヘカラス起草委員會ニ於ケル審議ノ進捗カ豫想外ニ遲延シタルハ一般委員會決議ノ三性質カ海軍兵器ニ適用セラル、場合如何ニ解釋セラルヘキヤトノ抽象問題ヲ討議シタルト出來得ル限り一致ノ意見トシテ報告セント試ミタルカ爲ナリ起草委員會ハ上記ノ解釋ヲ附スルニ成功セルモ各委員中之ニ依リテ從來ノ見解ヲ變更スルモノナリ又一致意見ヲ得ントスル試ハ失敗セル爲各國ノ意見ヲ分類羅列セル報告書ヲ提出スルノ外ナキニ到レリ

第二、一般 討 議

本問題ノ審議ハ先ツ一般討議ヨリ開始スルコトナリ第六回、第七回及第八回會議ニ於テ日、英、米、佛、伊、獨、蘇、西、蘭、波、支、芬及丁抹委員ノ意見ノ開陳アリタルカ一般委員會ノ要求スル海軍兵器ヲ選擇スルニハ如何ナル主義若ハ

標準ニ依ルヘキヤニ關聯スル一般論トシテハ英國委員ヨリ

「一般委員會決議ノ第一ト第二トハ之ヲ區別スルコト困難ナリ故ニ之ヲ一個トシテ考フルニ其ノ根本精神ハ侵略國ノ攻撃ヲ助ケテ侵略ヲ蒙レル國ノ防禦ヲ迅速ニ破壊セシムル兵器ヲ選擇スルニアルヘシ總テノ軍艦ハ概ネ一體トナリテ行動スルカ故ニ其ノ何レカ攻撃のナリヤ又防禦のナリヤノ區別ヲナスコト困難ナリ(但シ潛水艦ハ例外トスルカ如シ)又一般委員會ノ決議ハ近代科學ノ進歩ノ結果國防ヲ破壊スルニ有效ナル兵器ノ出現ヲ見タルコトヲ基礎トスルカ如キモ海軍ニハ此ノ如キ兵器ノ發達ナシ」

米國委員ヨリ

「攻撃及防禦ノ關スル限り陸兵輸送ノ場合ヲ除キ陸戰ト海戰トノ間ニ類似ノ點ナシ安全ノ第一義ハ國土侵略ニ對スル安全ナリ海戰ノ目的ハ制海權ノ獲得ニ在ル處制海ハ通商ト關係ス而シテ如何ニ重大ナリト云ヘ通商ノ安全ト領土權ニ對スル安全トハ之ヲ比較シ得ヘキモノニ非ス攻撃的及防禦的ナル區別ハ海軍ニハ適用シ得ス蓋シ海軍力自身ハ外國ノ領土權ヲ侵害シ得サルカ爲ナリ加之海軍ハ防禦ノ第一線ニシテ如何ナル艦種モ一般委員會ノ決議ノ三性質ノ何レヲ具有スルモノニ非ス(米國ノ此ノ主張カ潛水艦ニ關シテモ然リヤハ明カナラス)」

佛國委員ヨリ

「武裝、速力、行動範圍ヲ第一トスル建造費異常ナル艦船ヲ特ニ攻撃的艦船ト云フコトヲ得サヤ(即チ建造費ヲ標準トス)」

獨逸委員ヨリ

「『ヴェルサイユ』條約ヲ基準トスヘシ」

及蘇國委員ヨリ

「海軍力ニ依ル國防侵襲ノ方法五アリ(一)封鎖(二)侵略準備(三)商船ノ攻撃(四)國ノ中心ヲ艦載飛行機ニテ攻撃

スルコト(五)國ノ中心ヲ海軍砲ニテ砲撃スルコト即チ是ナリ
 之等ハ特別ノ攻撃的性質ヲ有スル艦船ニ依ラサレハ實行シ得ス而シテ此ノ攻撃的性質トハ大排水量、大行動範圍、備砲口徑、射程及速力等ナリ而シテ之ヲ艦種ニ適用スルニ主力艦備砲口徑大ナル「モニター」艦一萬噸巡洋艦、大型潛水艦、航空母艦等ハ即チ攻撃的艦船ナリ」

等ノ所說アリタルモ會議全體ノ論調ハ頗ル實際的ニシテ主力艦、航空母艦(及類似ノ艦船)潛水艦及機雷等具體問題ニ付夫々各國ノ態度ヲ表明セリ

第三、各兵器ニ關スル具體的討議

四月二十八日第八回海軍委員會ハ一般討議終了後幹部會ノ作成セル議題ヲ採擇シ右ニ從ヒ主力艦、航空母艦、潛水艦、機雷及其ノ他(化學戰、細菌戰及沿岸要塞ヲ含ム)ノ順序ニテ討議スルコト、ナレリ(彼上ノ艦種ハ嚴格ニ限定セラレタルモノニ非スシテ類似ノ艦船ヲ含ムモノナルコト我方ノ注意ニ依リ議長ノ特ニ聲明セル所ナリ)本討議ニ於テハ票決ニ附スルコトナカリシヲ以テ各國代表ハ概ネ一般討議ノ際述ヘタル所ヲ反覆敷衍シテ説明シタルニ止リ何等論議ヲ重スルカ如キコトナカリキ

一、主 力 艦

本問題ニ關シテハ四月二十九日第九回會議ニ於テ西、獨、日、米、伊、濠及英國委員ノ意見開陳アリ次テ五月三日第十回會議ニ於テ瑞、波斯、羅、蘇、蘭、波、諸各國委員ノ態度聲明アリ右ニテ終了ス(本問題ニ關スル主要國ノ態度ニ付テハ次項參照)

二、航 空 母 艦

本問題ニ關シテハ五月三日ノ第十回委員會ニ於テ佛、米、蘇及伊國委員ノ聲明アリ翌四日第十一回會議ニ於ケル英、羅、日、西、土各委員ノ聲明ニテ終了セリ(本問題ニ關スル主要國ノ態度ニ付テハ次項參照)

本問題審議ノ手續ニ關シ西國委員ヨリ空軍委員會ニ軍用航空全廢ノ提議繫屬中ナルカ故ニ右決定前ハ本問題ヲ議スルモ無益ナルヘシトテ本件討議延期ノ提案(第六回委員會ニ於テ)ヲナシタル處議長ハ海軍委員會ニ於テ本件ヲ海軍問題ノ見地ヨリ審議スルハ空軍委員會ノ事業ヲ容易ナラシムヘシトノ意見ニテ西國委員ヲ説キタル爲同委員モ海軍委員會ノ討議ハ豫備的討議ト了解ストテ同意スルニ至リ斯クテ討議ヲ續ケタル次第ナルカ英米兩國委員ハ共ニ爆撃廢止問題決定後ニ非サレハ航空母艦問題ハ決定シ得ストノ意見ヲ述ヘ西國提案ニ賛成セリ

我方ハ海軍委員會ハ空軍委員會ト獨立ニ航空母艦問題ヲ審議シ得ヘク右ハ華府及倫敦會議ノ先例アリト主張セリ

三、潛 水 艦

本問題ニ關シテハ五月四日ノ第十一回委員會ニ於テ蘭、英、瑞、佛、獨委員ノ討議アリ次テ翌五日ノ第十二回會議ニ於テ伊、波、諾、西、日、土、支、米各委員ノ聲明ヲ以テ終了セリ(本問題ニ關スル主要國ノ態度ニ付テハ次項參照)

四、機 雷

本問題ニ關シテハ五月五日ノ第十二回委員會ニ於テ提案者タル和蘭委員ヨリ公海ニ於ケル機雷敷設ノ非戦闘員ニ對スル危險及之カ規律ニ關スル從來ノ歴史ヲ述ヘ本問題ニハ種々ノ難問アリ(公海ノ定義等)故ニ此ノ際ハ公海ニ於ケル機雷敷設ハ非戦闘員ヲ脅威スルモノナリト趣旨ヲ一般委員會ニ答申スレハ足ルヘシトノ説明アリ英國委員ハ之ニ對シ潛水艦廢止ヲ條件トシテ右提案ニ賛スヘシト述ヘ(註一)伊國委員之ニ賛シ獨逸委員又他國ニ於テ同意スルニ於テハ獨逸又公海ニ於ケル機雷敷設禁止ニ賛スル旨ヲ述ヘ其ノ他討議通告者ナク斯クテ審議ヲ終了セリ

(註一)英國委員ハ公海ニ敷設セラレタル機雷ハ機雷敷設區域カ一般作戰區域ノ一部ヲ成ス場合ニ於テモ攻撃的ナリ機雷ハ國防破壞ニ有效ナルモノニ非ス機雷ハ非戦闘員ヲ脅威スト述ヘタル後英國ハ商船保護ニ出來得ル限り盡力スルヲ辭セサルモ大戰中機雷力潛水艦ニ對シ有力ナル防禦手段ナリシヲ忘ルルヲ得ス從テ敷設ニ當リテハ海牙條約ノ規定ニ準據スヘキハ勿論ナルモ潛水艦廢止セラレサル限り公海ノ機雷敷設ノ禁止ニハ賛スルヲ得ストノ趣旨ヲ述ヘタリ

(註二)佛國委員聲明(四月二十八日第八回海軍委員會ニ於テ)

自動觸發機雷ハ繫維スヘク領海ノミニ敷設スヘシ但シ領海ノ定義ヲ別ニ定ムルヲ要ス防禦ハ少クトモ攻撃ト同一ノ權利ヲ有スヘキモノナルヲ以テ彈着距離ヲ以テ機雷敷設ノ範圍トスヘシ機雷ハ使用政府ノ「マーク」ヲ附スヘシ聯盟ハ機雷ノ製造ニ技術的管制ヲ行フヲ要ス

五、河川用軍艦

本問題ハ五月五日第十二回委員會ニ於テ提案者タル洪國委員ヨリ歐洲河川ニ使用ノ二百五十噸備砲三、一五吋ヲ超ユル艦船ハ一般委員會決議ノ三性質ヲ具有スルモノナリトテ提案ノ趣旨ノ説明アリ之ニ對シ獨國及伊國委員賛意ヲ表シ「ユーゴースラヴィア」及羅馬委員反對ヲ表示ス右ニテ本件討議ヲ終了セリ(註)

(註) 右會議ニ於テ蘇國委員ハ航行「モニター」艦(特ニ沿岸砲擊用ナルヲ以テ)一萬噸八吋巡洋艦モ一般委員會ノ決議ノ性質ニ合スルモノナリト述ヘタ

然ルニ羅馬尼委員ハ五月九日ノ第十四回會議ニ於テ再ヒ本問題ニ付發言ヲ求メ曩ニナセル自己ノ聲明ヲ補足シテ詳細説明ヲ加ヘ此ノ種艦船力決議ノ三性質ノ何レヲモ具有セサルコトヲ主張セルカ之ニ對シテハ洪國委員ヨリ再ヒ反駁アリ斯クテ本件討議ヲ終了セリ

六、化學戰及沿岸要塞

化學戰及細菌戰ノ問題ハ五月三日ノ三委員會議長會議ニ於テ別ニ委員會ヲ設ケ審議セシムルコトニ決定セル結果海軍委員會ハ同問題ニ觸ル、ノ要ナキニ至レリ(第十一回海軍委員會議事參照)沿岸要塞ノ問題ハ議長ノ提議ニ依リ質的軍縮討議ノ際ハ討議セサルコト、ナレリ(第十二回海軍委員會議事參照)

第二項 主力艦、航空母艦及潛水艦ニ關スル主要國ノ態度

質的軍縮問題ニ關スル小國側ノ意嚮ハ概ネ特定大國ノ主張中發見スルヲ得ルト同時ニ本節第四項一般委員會ニ對スル報告書概要中ニ記述セルヲ以テ茲ニ之ヲ擧ケサルコト、セリ

第一、主力艦ニ關スル各國ノ態度

一、帝 國

主力艦ノ攻撃的ナリヤ否ヤヲ論セントスルニ當リテハ先ツ海軍委員會ノ任務カ武器ノ攻撃性其ノモノヲ攻究シツ、アルニ非スシテ攻撃性ノ程度ヲ攻究シツ、アルコトヲ明瞭ニ了解セサルヘカラス此ノ見地ヨリスルニ主力艦ハ海軍ノ基幹ニシテ他艦種ニ比シ多ク點ニ於テ著シク優勢ナリ其ノ特質ノ一ハ如何ニ有效ナル爆彈、魚雷、砲彈又ハ機雷ヲ使用スルモ一撃ヲ以テ擊沈スルコト能ハサル點ニアリ然レトモ主力艦ハ他艦種ト協同スルニ非サレハ作戰スルニ適セス艦隊ノ基幹トシテ作戰スルトキ初メテ其ノ能力ヲ發揮スルコトヲ得ルナリ故ニ艦隊力攻撃的ニ使用セラルルトキニ非サレハ主力艦ハ攻撃的ナリト言フヲ得サルヘシ航空母艦ハ他艦種ト關係ナク獨立作戰容易ニシテ海岸ヨリ遠隔セル洋中ヨリ其ノ慘虐ナル破壊力ヲ海上陸上ノ孰レニモ逞フシ内陸ニ在ル非戦闘員ニ脅威ヲ與ヘ得ヘキモ主力艦ハ前述ノ如ク全ク性質ヲ異ニス然ルニ唯其ノ艦型及備砲ノ威力大ナルノ故ヲ以テ最も攻撃的若ハ最も非戦闘員ヲ脅威スルモノトナス說ニハ賛成スルヲ得ス斯ク云フモ決シテ艦型及備砲口徑縮少ニ反對ナルニ非ス右ハ却テ軍縮ノ目的ヲ達シ經費負擔ヲ輕減スル美譽ナリト思考ス唯軍縮カ主力艦ノ本質ヲ失ハシムヘカラサルコト勿論ナリ(第九回海軍委員會ニ於ケル聲明)

二、英 國

海軍ニ於テハ何レノ艦船モ特ニ攻撃的ト云フヲ得ス主力艦ハ敵ノ攻撃ヲ阻止スルニ最も適シ大戰中ニモ主トシテ防禦的任務特ニ「コンヴォイ」ノ保護ニ用ヒラレ攻勢作戰ニ用ヒラレタルハ稀有ナリ敵ノ防禦ヲ破壊スルニ二方法アリ一ハ物資ノ供給ヲ防止スルノ方法ニシテ他ハ國土侵襲ヲ援助スルノ方法ナリ然ルニ物資ノ供給ヲ防止シ得ルハ主力艦ノ存在スルカ爲ノミニ非スシテ一般的海軍力ノ優勢ニ依ルモノナリ而シテ右ハ他國土侵襲ノ場合即チ上陸兵掩護ノ場合ニ於テモ亦然リトス此ノ場合ニ於テ上陸地ニ要塞ナキトキハ主力艦ニ限ラス他ノ艦船ニテモ砲擊シ得ヘク要塞アル場合ハ主力艦ハ決シテ之ニ對抗シ得ルモノニ非ス殊ニ近代ノ如ク主力艦ノ隻數少キ場合ニ於テ要塞砲擊ノ爲ニ主力艦ヲ使用スルカ如キハ大ニ躊躇セサルヲ得サル所ナリ

三、米 國

米國海軍ニトリテ主力艦ハ艦隊ノ基幹ナリ主力艦ノ廢止ハ海軍ヲ全然改造スルモノニシテ此ノ如キ極端ナル方法ハ各國ノ需要ヲ考慮スヘシトノ主義ニ反ス米國ハ最モ完全ナル國防手段トシテ海軍ニ依憑スルノミナラス全世界ノ爲最モ重要ナルモノ即チ「パナマ」運河ヲ防禦スル爲海軍力ニ依憑ス同運河ノ防衛ハ米國ノ精神的義務ニシテ米國ハ之ヲ履行スルノ決意ヲ有ス故ニ之カ爲充分ナル海軍力ヲ絕對ニ必要トス若シ一海軍國ノ任務カ其ノ國ノ正當ナル防禦區域ヲ超エテ陸軍力ヲ發動セシムルニアラハ陸軍ト合同セル海軍ハ脅威ヲ構成スト言ヒ得ヘシ然レトモ右ハ米國ノ場合ニ該當セス主力艦ハ商船ニ對シテハ最モ有效ナラサル艦種ナリ主力艦自身ハ封鎖ニ有力ナラス行動遲緩ニシテ建造ニ長年ヲ要スルヲ以テ奇襲ニ適セス要スルニ主力艦ハ攻撃の兵器ト稱スルヲ得ス（加之主力艦ノ存在ニ依リテ初メテ陸軍兵力ヲ減少シ得）

四、佛 國

主力艦ハ國土防禦ニ有效ナリ水上艦船ハ總テ非戰闘員ヲ脅威スルコトヲ得故ニ適當ナル國際規約ヲ設ケ其ノ行動ヲ律スルヲ要ス水上艦船ハ何レモ國防破壊ニ有力ナルモ主力艦ハ最モ有效ナリ斯ル國防破壊力ノ縮少ハ艦型ノ縮少及備砲口徑ノ縮少ニ依リテ求ムルヲ得ヘシ攻撃のナリヤ防禦のナリヤハ使用者ノ意思ニ依リテ定マリ使用者ノ意思ハ艦船ノ設計ニ依リテ知ルコトヲ得（本節第一項佛國委員ノ所說參照、恐ラク獨逸ノ一萬噸型主力艦ノ如キハ攻撃のナリト言フノ意ナラン）

五、伊 國

攻撃の性質ト防禦の性質トノ間ノ區別ハ對獨平和條約ニ見出シ得ヘシ現時海軍ノ優位ハ主力艦ノ勢力ノ大小ニ懸ル艦隊ノ眞ノ攻撃力ハ主力艦ニアリ主力艦ハ防禦力最モ大ナルト共ニ攻撃力最モ大ニシテ潛水艦及爆撃機ノミ時ニ對抗シ得ルノミ主力艦ナキカ又ハ主力艦少キ國ニ對シテハ其國防力敵ノ優勢ナル主力艦ニ依リ破壊セラルヘキコト必セリ主力艦ハ又間接ニ封鎖ニ依リ非戰闘員ヲ脅威ス故ニ主力艦ハ最モ攻撃の且非戰闘員ヲ脅威スルモノナリ

六、獨 逸

獨逸ノ見解ハ一般的ニ「ヴェルサイユ」條約ニ基礎ヲ置クモノナリ然レトモ獨逸ハ他國カ受諾スルニ於テハ同條約ヨリモ一層嚴格ナル制限ヲ受諾スルノ用意アリ主力艦ハ直接ノ行動ノミナラス封鎖ノ如キ間接ノ行動ニ參加ス主力艦ハ攻撃の目的ヲ遂行セントスル海軍ニ對スル基幹ヲナスモノナリ

艦型ヲ縮少セハ主力艦ハ其ノ防禦性ヲ保持シ攻撃性ヲ失フヘシ獨逸ハ一萬噸ヲ超エ備砲二八〇「ミリ」ヲ超ユル主力艦ハ特ニ攻撃の武器ナリト考フ

七、蘇 國

國防組織及造船技術ニ變更ヲ及ボスヤ否ヤ等ハ政治問題ニシテ吾人ノ權限外ナリ又各國ノ特殊事情ヲ考慮スルトキハ問題ハ解決シ得サルニ至ラン外國ニ兵士ヲ上陸セシムルハ主力艦ニ依ルヤ制海權ニ依ルヤニ付テモ制海權獲得ニハ各種ノ要件ヲ必要トスルモ吾人ハ其ノ全部ニ非スシテ單ニ攻撃作戰ニ主力艦カ如何ナル役目ヲ演スルヤ換言スレハ主力艦ノ性能如何ヲ究明スレハ足ル而シテ近代ノ主力艦カ質的ニ如何ニ大ナル攻撃力ヲ有スルヤハ自ラ明カナリ

主力艦ハ一般委員會決議ノ三性質全部ヲ具有ス但シ一萬噸以下十一時乃至十二時以下ニテ少數ノ主力艦ハ自國領水ニ限り行動スル場合防禦のト云フコトヲ得ヘシ

第二、航 空 母 艦

一、帝 國

航空母艦ノ討議ニ當リテハ發着甲板ヲ有スル巡洋艦ヲモ同時ニ考慮スルノ要アリ此ノ如キ巡洋艦ハ航空母艦ト同様攻撃の性質ヲ有スルモノニシテ幸未タ其ノ出現ヲ見サルヲ以テ之カ出現ヲ豫メ防止セサルヘカラス而シテ一般討議ノ際上述兩艦種ヲ一般委員決議ノ三性質ヲ有スルモノナリト斷定セルハ左記理由ニ依ル（一）行動輕快ニシテ奇襲ニ適ス（二）國防ノ問題ヲ複雜ナラシム（三）艦隊ノ攻撃性ヲ増加ス（四）沿岸防禦ヨリモ攻勢作戰ニ適ス（五）新兵器ナルヲ以テ其ノ破壊力ハ豫想スルヲ得ス以上五項ノ理由ハ茲ニ再說セサルモ爾後各種ノ意見出テタルヲ以テ二、三ノ點ニ付我見解ヲ明瞭ニス

ン

(一) 航空母艦ノ廢棄ハ艦隊ノ編成ヲ困難ナラシメ海軍兵術ノ變革ヲナスヲ要ストノ說アルモ母艦ノ廢棄ハ國防ヲ簡單ニシ各國海軍ニ及ボス影響ハ全ク相對的ニシテ特定海軍ニノミ不利ヲ與フルモノニ非ス

(二) 爆撃機ヲ搭載セサルハ母艦ハ攻撃のナラストノ意見ニハ賛スル能ハス優勢ナル艦隊カ母艦又ハ類似ノ艦船ヲ有スルトキハ遠隔地點ニ對スル攻勢作戰ヲ一層迅速ナラシメ從テ艦隊ノ攻撃性ヲ増加スルモノニシテ此ノ種艦船カ攻勢作戰ヲ企圖セサル艦隊ニ必要ナル理由ヲ發見スルニ苦シムモノナリ

(三) 母艦ハ偵察機ノ爲ニ必要ナリト云フモノアルモ偵察機ノ他艦種搭載ハ容易ニシテ「カタバルト」ニ依リ射出スルヲ得ルニ依リ母艦ハ不要ナリ

航空母艦ハ潜水艦ニ對シテ有效ナルコトヲ認ム然レトモ潜水艦ハ劣勢海軍國ノ防禦ノ武器ナルヲ以テ偶々潜水艦ニ對シテ有效ナリト云フハ航空母艦ノ攻撃のナルヲ示スモノナリ

陸上航空兵力ノ攻撃ニ對抗スル爲航空母艦ヲ要スト云フモ斯ル必要ハ艦隊カ攻撃の意思ヲ以テ他國ニ接近スルトキニ非サレハ起ラサルモノナリ

上述ノ如ク航空母艦及類似ノ艦船ハ決議ノ三性質ヲ具有スル典型的ノモノニシテ他委員會ノ決定如何ニ依リテ左右セラル、モノニ非ス(第十一回海軍委員會ニ於テ聲明)(註)

(註) 一般討論ノ際ニ於ケル我方聲明要旨、航空母艦及發着甲板裝備ノ艦船ハ一般委員會決議ノ三要素ヲ具有スルモノナリ

(一) 略

(二) 着甲板裝備ノ艦船一九三〇年倫敦海軍會議ノ際日英米三國間ニ本件協定成立シタルカ其ノ目的トスル所ハ搭載乗員ノ人命救助ニアリテ此ノ目的達成ニ必要ナル小規模ノ着甲板裝備スル艦船ナリシコトハ論ヲ俟タス

故ニ此ノ精神ニ悖リ大ナル着甲板裝備シ航空母艦ト區別困難ナル如キ艦種ノ出現ヲ見ルカ如キハ全然吾人ノ豫想セサル所ナルノミナラス又本件協定成立ノ精神ニモ反スル所ナレハ幸ヒ未タ此ノ如キ艦種ノ出現セサル今日之カ禁止ヲ協定スルハ最も時宜ニ適スルモノト云フヘク航空母艦ノ廢止實行セラルルニ於テハ本問題ハ又自ラ消滅スヘシ

二、英 國

海軍ニ於テハ如何ナル艦船モ特ニ攻撃のト云フヲ得ス航空母艦ヲ攻撃のナリトナスハ母艦其ノモノヲ攻撃のナリトナスニ非スシテ(魚雷ノ外ハ防護、備砲共ニ弱小ナリ)其ノ搭載スル飛行機ヲ攻撃のトナスモノナルヘシ故ニ母艦ノ搭載スル三種ノ航空機(偵察機ハ三分ノ一以上、爆撃機ハ三分ノ一ニ充タス)ニ付觀察セハ母艦ノ攻撃のナリヤ否ヤヲ知ルニ足ルヘシ

爆撃機、艦載爆撃機ノ威力ハ稍々誇張セラレタリ蓋シ母艦其ノモノハ脆弱ナルコト、母艦ノ割當保有量ニ制限アルコト、搭載機數ニ制限アルコト、機ノ大サニ制限アルコト、着艦ニ必要ナル性能ハ機ノ行動範圍ヲ小ナラシムルコト及發着ノ作業容易ナラサルコト等ヲ知ラハ艦載爆撃機ノ眞ノ行動範圍ヲ知ラン

偵察機、偵察機搭載ハ航空母艦ノ存立理由ナリ偵察機ハ他ノ艦種ニモ搭載シ得ヘシトノ論アルモ他艦種ノ搭載シ得ルモノハ自ラ水上機タルヲ要スルヲ以テ天候極メテ良好ナラサル限リ着水ニ當リ遭難スヘシ偵察機ハ艦隊ノ耳目ニシテ且艦隊カ外國ノ陸地ニ近接シ航行スル際陸上ノ航空兵力ニ依ル攻撃ニ對抗スル爲絶對ニ必要ナリ(英國ノ如キ各地ニ散在スル領土ヲ有スル國ニトリテハ外國領土ニ近接シ航行スルコトハ極メテ當然ナリ)

戦闘機、戦闘機ハ根本的ニ防禦のニシテ別ニ説明ヲ要セス要スルニ偵察、戦闘兩機ハ一般委員會決議ノ性質ヲ具備スルモノニ非ス

三、米 國

航空母艦ノ廢止ハ海軍ヲ全然改造スルモノナリ此ノ如キ極端ナル方法ハ各國ノ需要ヲ考慮スヘシトノ主義ニ反ス

航空母艦ハ攻撃的ト見做サレタリ然レトモ航空母艦ハ商船ニ對シテハ最も有效ナラサル艦種ナリ

航空母艦ハ偵察ノ爲有用ニシテ今日迄右目のノ爲航空母艦ヲ使用スルコトヲ非議セラレタルコトナシ爆撃機ニ付テハ倫敦條約ハ潜水艦ニ對シ防禦スル爲各國ニ許容セラルヘキ飛行機ノ比率ヲ決定セリ爆撃機ハ潜水艦ノ存在スル限リ艦隊ノ防護

ニ必要ニシテ潜水艦廢止セラレサル限り爆撃機廢止ヲ考慮シ得ス海軍力ノ割當ヲ變改セントセハ此ノ點ニ考慮スルヲ要ス
ヘク潜水艦ヲ廢止セスシテ航空母艦ノミヲ廢止セントスルハ倫敦條約ノ精神ニ反ス又陸上航空兵力ニ依リ脅威セラル、ニ
拘ラス海上爆撃ヲ廢止シ得ヘキヤ海軍力ノ割當變更ハ一九三六年末迄（締約國ノ同意ナキ限り）之ヲ行フヘキモノニ非ス
又一般條約ハ倫敦條約ノ規定ヲ採用スヘキモノト考フ

四、佛 國

爆撃機廢止セラレタリトスルモ猶偵察機及「コンヴォイ」保護ノ爲航空母艦ハ必要ナリ

爆撃機及爆彈ヲ搭載セサル航空母艦ハ非戦闘員ヲ脅威セス爆撃力ヲ縮減セハ航空母艦ノ艦型ヲ縮少シ備砲口徑ヲ縮少シ斯
クテ航空母艦タルト同時ニ巡洋艦タルカ如キ艦船ナキニ至ラシムルヲ得ヘシ佛國ハ艦型ノ縮少ニ賛ス

五、伊 國

航空母艦ハ爆撃機ノ浮動飛行場ニシテ航空母艦ノミ爆撃機ヲ搭載シ得ルモノナリ航空母艦ノ大ナル移動性及行動範圍ハ其
ノ搭載スル爆撃機ノ行動範圍及有效性ヲ増大ス艦載飛行機ハ陸上目標ノ爆撃ニ大ナル攻撃的能力ヲ發揮ス而シテ陸上ヨリ
遠隔ナルカ故ニ攻撃ヲ受ケス艦載飛行機ハ通商路ヲモ攻撃スルコトヲ得
故ニ航空母艦ハ明カニ攻撃の且破壊のナリ

六、獨 逸

獨逸ノ意見ハ「ヴェルサイユ」條約ニ基クモノニシテ航空母艦ハ攻撃のナリ航空母艦ハ遠隔ノ地ヲ攻撃スルニ適シ又航空
母艦ナキ國ニ對シテハ特ニ有力ナル兵器ナリ航空母艦ハ爆撃ノ爲ナラスシテ偵察ノ爲必要ナリト云フモノアルモ偵察ノ目
的ニハ特別ノ艦ヲ必要トセス他ノ現存艦種モ充分ニ偵察機ヲ搭載シ得ヘシ爆撃機ノ搭載力潜水艦ニ對抗スル爲必要ナリト
云フモ大戰中爆撃ニ依リ潜水艦ノ沈没セルコト極メテ少シ

七、蘇 國

自己ノ領海内ニ留マラスシテ渡洋作戰ヲナス場合ニ非サレハ航空母艦ノ必要ナシ故ニ如何ナル飛行機ヲ搭載スルニ關セス
航空母艦ハ一般委員會ノ決議ノ三性質ヲ具有ス
偵察機ハ他ノ艦種ニテ搭載シ得ヘシ

第三、潜 水 艦

一、帝 國

帝國ノ意見ハ一般討議ノ際既ニ詳細ニ亘リ發表シタルヲ以テ茲ニハ二、三ノ點ニ付追加説明ス

潜水艦ハ有力ナル兵器ト云フヲ得ス即チ他艦船ニ比シ其ノ備砲ハ著シク小ナリ其ノ魚雷ハ驅逐艦、巡洋艦ノ魚雷ニ比シ是
又遙カニ小ナリ通信力、速力及視界ハ極メテ制限セラレ大型潜水艦ノ行動半徑ト雖モ大型水上船艦トハ比スヘクモ非ス即
チ潜水艦ノ戦闘能力ハ水上艦艇ニ比シ遙カニ小ナルモノニシテ之ヲ特ニ攻撃的ナリト類別スルハ當ラス潜水艦ノ有スル唯
一ノ性質ハ潜航シ得ルニアリト雖一旦潛没スルトキハ其ノ行動能力、通信力及視界ヲ一層局限セラレ到底水上艦艇ト對抗
スルヲ得ス其ノ爲シ得ル所ハ唯敵ノ來ルヲ監視シ其ノ射程内ニ入ルヲ待ツアルノミニテ此ノ機ヲ得タルトキ初メテ水上艦
船ニ對抗シ猶多少成功ノ算ヲ有スルナリ故ニ潜水艦ハ特ニ劣勢海軍ニ適スル防禦兵器ト見做サルヘキモノニシテ之ヲ廢止
セハ優勢海軍國ニ完全ナル優勢ヲ賦與シ劣勢艦隊ヲシテ其ノ國土防禦ヲ不可能ナラシムルモノニテ優勢艦隊ハ益々強大ト
ナリ劣勢艦隊ハ愈々劣弱トナルニ至ルヘシ討議中大型潜水艦或ハ行動半徑大ナル潜水艦ハ如何ナル場合ニ於テモ特ニ攻撃
的ナリトスル意見アリタルモ現存ノ最大型潜水艦ト雖モ其ノ戦闘能力ハ水上艦艇ニ比スレハ極メテ小ニシテ其ノ速力、砲
力、魚雷力等ニ於テハ明カニ劣勢ナリ即チ條約案ノ規定スル型ノ潜水艦ヲ特ニ攻撃的ナリトスル意見ニハ賛成スルヲ得
サルナリ加之潜水艦ノ艦型ノ縮少ハ各國ニ對シ各異ナリタル影響ヲ與フ潜水艦ノ艦型ノ決定ニ當リテハ其ノ國ノ一般狀
勢、地理的地位、地勢、海象等ヲ考慮セサルヘカラス例ヘハ海岸線長ク島嶼多キ國ハ防禦上大型ノ潜水艦ヲ要スヘシ我艦
隊ニトリテハ經驗上小型潜水艦ハ航海性及居住性ノ見地ヨリ實際の價值小ニシテ特ニ近海荒天多ク波高キトキハ潛望鏡ヲ

使用シテ潛航スルコト極メテ困難ニシテ其ノ效力ヲ著シク減少ス潜水艦ハ濫用スルコトアリト非難セラレタルモ水上艦艇モ全ク同様ニシテ水上艦艇ノ使用ヲ誤リタルトキハ其ノ結果ハ一層重大ナルモノアリ故ニ潜水艦ヲ特ニ脅威的ナリト稱スルハ當ラサルナリ加之倫敦條約第二十二條ヲ嚴守セハ此ノ如キ懸念ハ全ク一掃セラルヘシ即チ條約案ノ二千噸以下ノ潜水艦ハ劣勢海軍國ニトリ欠クヘカラサル防禦的兵器ニシテ決議ノ三性質ノ何レニモ相當セス而シテ水上艦艇及一般海軍力ヲ考慮ニ入レテ潜水艦ノ大縮減ヲ爲サントスル提議ニハ賛成スルヲ得ス（第十二回海軍委員會ニ於ケル聲明）

（註）一般討論ノ際ニ於ケル我方聲明要旨

潜水艦ハ武力弱ク速力小ニシテ如何ナル水上艦艇ニモ對抗スルヲ得ス唯其ノ潛航スル特異ノ性質ト所在ヲ隱匿シ得ル爲メ攻撃的ナリト認メラルコトアルモ一旦潛航セハ速力極メテ小トナリ視界狭ク其ノ行動半徑ハ著シク縮セラレ附近ニ一小驅逐艦アラハ浮上スルコト不可能ナリ潛航中ハ行動極メテ困難ニシテ意ノ如クナラス敵カ至近距離ニ接近シタルトキノミ攻撃的ニ使用スルヲ得ルモ敵ヲ追跡スルコトハ全ク出来サルヲ以テ敵艦ニ對シ長時間對抗スルコト不可能ナリ其ノ所在ヲ隱匿シ得ル特性ハ攻撃的ニハ非スシテ其ノ劣勢ヲ補フ爲メ防禦的性質ニ過キス即チ潜水艦ハ其ノ海岸線著シク長大且戰略的方面廣大ニシテ而モ水上艦艇ノ勢力不足ナル國家ノ防禦ニハ最も適當ナル兵器ト云ハサルヘカラス大戦中潜水艦カ通商破壊ニ屢々使用セラレタリトノ理由ヲ以テ之ヲ非人道的ナリトナスモノアルモ之ハ潜水艦カ濫用セラレタル場合ヲ指スモノニシテ水上艦艇ト雖モ濫用セラルルニ於テハ同一ノ非難ヲ受クルコト勿論ナルノミナラス使用法ノ如何ニ依リテハ潜水艦以上ニ非人道的ノ結果ヲ生ジ得ル兵器ヲ指摘スルコト困難ナラス潜水艦ヲ攻撃的ナリト云フ説ニ賛成スルヲ得サルナリ

二、英 國

海軍ニ於テハ何レノ艦船モ攻撃的ナリト云フヲ得ス但シ潜水艦ノミ例外ニシテ非戦闘員ヲ脅威ス

潜水艦ハ國防ヲ破壊スル力ナシ

英國ハ潜水艦ノ廢止ヲ人道の見地ヨリ提唱ス潜水艦ハ濫用ニ陥リ易シ（目的ヲ達スルニ急ナル爲故意ニ濫用シ又視界制限サル、爲標的ヲ誤ルコト多シ）倫敦條約第四編ノ如キヲ遵守スレハ可ナルカ如キモ潜水艦ノ存在ハ之ニ對抗スル水上艦艇（制限外艦船ヲモ含ム）ヲ必要トス潜水艦ハ建造費維持費共ニ高ク且海上陸上ノ施設ヲ必要トス尙潜水艦ハ秘密ノ間ニ建造保持シ得ス且商業用途ナキ爲廢止スルニ實際的困難ナシ加之廢止後年ヲ經ナハ建造ノ技術ヲ失ヒ再ヒ建造スルコト困難

トナラン艦型ノ縮少ハ全般ニ及ハサルコト遠キモ英國ハ沿岸防禦及植民地防禦ニノミ充分ナル程度ニ艦型ヲ縮少センコトヲ提言ス右噸數ハ水上二百五十噸水中三百四十噸トス右噸數ヲ超ユル如何ナル噸數モ沿岸防禦用艦ト言ヒ得サルヘキヲ以テ英國ハ之ヲ受諾シ得ス又單艦噸數ヲ縮少スルモ隻數ヲ増加スルトキハ意義ヲナササルニ依リ各國ノ保有量ニ對シ右縮少ニ相應スル縮少ヲナスコトヲ要ス

三、米 國

米國ハ潜水艦カ海軍ノ必要欠クヘカラサル部分ニ非ス水上艦船ト別個獨立ノ艦種ニシテ其ノ廢止カ現存艦隊ノ組織ヲ破壊スルモノニ非サルニ鑑ミ之カ廢止ニ賛ス

倫敦條約第二十二條ヲ遵守セハ非戦闘員ニ對スル脅威ハ去ルヘシトナスモノアリ然レトモ米國全權部ハ危險ハ全然除去セラレサルヘキヲ虞ル、モノナリ潜水艦ハ其ノ構造ニ鑑ミ艦長カ如何ニ誠實ニ規定ヲ遵守セントスルモ能ハス且倫敦條約ノ規定モ非戦闘員ノ保護ニ充分ト云フヲ得ス米國ハ萬一戰爭起ル場合此ノ規則ノ遵守セラレサルコトアルヘキヲ虞ル、モノニシテ一旦義務違反アラシカ忽チ之ニ對スル報復ヲ生シ其ノ被害言フニ堪エサルモノアラシ

小國殊ニ狭キ海面ヲ有スル國ノ潜水艦ニ對スル態度ハ了解シ得水上艦船上ノ聽音施設カ潜水艦ノ重要性ヲ減殺スルモノナリト考フル向アルカ如キ處事實ハ然ラス潜水艦上ノ聽音施設ノ發達ハ其ノ攻撃能力ヲ益々大ナラシム又會議ノ一大眼目タル經費節減ノ點ヨリ云フモ潜水艦ハ之ニ對抗スル艦型大ナル水上艦艇ノ建造特ニ多數驅逐艦ノ建造ヲ誘致ス

潜水艦々型問題ニ付テハ米國ハ意見ヲ留保スルモ若シ潜水艦ヲ保有スルトスルニ於テハ海外植民地ヲ有シ且條約ニ依リ該地ニ潜水艦根據地建設ヲ禁止セラル、國ハ航續力大ナル潜水艦ヲ必要トスルコトヲ念頭ニ置クヲ要ス米國全權部ハ大型潜水艦ノ攻撃性若ハ防禦性ヲ決定スルニ當リテハ此ノ點ヲ考慮ニ入ル、ヲ要スト考フ

四、佛 國

潜水艦ノミハ攻撃的ナラス蓋シ他艦ノ近接スルヲ待ツテ攻撃スルヲ以テナリ

潜水艦ハ砲撃力少ク沿岸防備ヲ破壊シ得ス

潜水艦ハ砲力少ク彈藥ノ供給少ク又速力小ナリ潜水艦ハ劣勢海軍國ノ唯一ノ武器ナリ即チ敵ノ水上艦船ニ對スル脅威ナルコト大戰ノ實例ニ徴シ明カナリ潜水艦ハ非戦闘員ヲ脅威スルコト最小ナリ潜水艦ハ商船ニ對シ脅威タリトハ誤ニシテ唯國際法規ヲ遵守スレハ足ル(海牙條約ヲ時代ニ合スル様改訂スルヲ要ス)潜水艦ハ封鎖ヲ實行シ得ス却テ「コンヴヱイ」ヲ保護スルモノナリ

潜水艦ノ艦型縮少ニハ賛同シ得ス

佛國ハ海牙條約ヲ改正シ商船ノ武装ナカラシメコトヲ希望ス然ラハ潜水艦ノ防禦性ハ絶對ニ保障セラル、ニ至ラン

五、伊 國

潜水艦ハ對商船行動ニ付國際法規ニ從フコト、セハ非戦闘員脅威ノ問題ハ消滅ス潜水艦ハ水上艦船ト合シ計畫的ノ攻撃ニ有效ナルカ故ニ攻撃のナリ加之潜水艦ノ存在ハ之ニ對抗スル防禦手段(驅逐艦「コンヴヱイ」艦等)ヲ發達セシメ著シク艦隊ヲ攻撃的トナスモノナリ

潜水艦ハ劣勢國ノ防禦武器特ニ主力艦ニ對スル唯一ノ武器ナリ

潜水艦ノ防禦的性質ハ主力艦ト關聯シテ考慮スルヲ要ス從テ主力艦ヲ廢止スレハ潜水艦又廢止セサルヘカラス仍テ伊國ハ潜水艦及主力艦ノ同時廢止ヲ提言ス潜水艦ノミノ艦型ノ著シキ縮少ハ主力艦ヲ廢止セサルハ潜水艦ノ一方の廢止ト同様ノ結果トナリ劣勢海軍ヲシテ益々劣勢ナラシムルモノナルヲ以テ之ニ賛同シ得ス

六、獨 國

「ヴェルサイユ」條約ノ規定ヨリ見レハ潜水艦ハ廢止セラルヘキモノナリ華府會議ニ於テ潜水艦ノ保有ヲ主張セル國ハ潜水艦力防禦的ナルカ故ニ非スシテ主力艦ニ對シ有力ナル武器ナリシカ爲ナリ

第三項 報告書ノ作成及確定

第一、起草分科會

海軍委員會ハ質的軍縮ニ關スル討議ヲ終了セル五月九日直ニ一般委員會ニ對スル報告書作成ノ方針ニ關スル討議ヲ開始シ其ノ結果起草分科會ヲ設立セリ(註)

(註) 海軍委員會幹部會ニ於テハ幹部ニ於テ提案ニ當リ得ヘク必スシモ起草分科會ノ設置ヲ要スルモノト考ヘ居ラサリシモノノ如クナリシカ五月九日ノ委員會ニ於ケル討議ニ鑑ミ如何ナル方針ニ依リテ報告書ヲ作成スヘキヤノ問題ニ付意見分レタルヲ以テ英國委員ヨリ幹部會ヲシテ提案ニ當ラシムヘトノ提言アリタルニ拘ラス議長ハ幹部會ヲ今直ニ起草シムルハ危險ナリトテ起草分科會ノ設置ヲ提言シ右ニ決定セル次第ナリ

右起草分科會ハ日、英、米、佛、伊、獨、蘇、西、芬、蘭、波、亞ノ十二國委員ヲ以テ組織セラレ五月九日、十日、十一日午前迄三回ノ會議ニ於テ報告書作成ノ方針ニ付審議シ同日午後幹部會作成ノ草案ヲ討議ノ基礎トシテ採擇シ十七日、十八日、十九日、二十日、二十一日迄五回ノ會議ニ於テ全議題ノ第一讀會ヲ了シ二十四日、二十五日午前及午後ニ至ル四回ノ會議ニ於テ審議ヲ完了シ報告案ヲ五月二十七日第十五回委員會ニ提出セリ

第二、報告書作成ノ方針

報告書作成ノ方針ニ關シ二個ノ提案アリ一ハ報告書ニハ先ツ吾人カ一般委員會決議ノ三性質ヲ如何ニ解釋セリヤヲ記述スル必要アリトノ主張ニシテ他ハ報告書ハ意見ノ羅列ニ非スシテ一致ノ意見ヲ記述スヘキモノナリトノ主張ナリ前者ハ獨逸案ノ採擇ニ依リテ實現セラレタルモ後者ハ分科會多數ノ賛同ヲ得スシテ終レリ從テ報告書ハ先ツ三性質ノ解釋ヲ述ヘ次テ各國ノ意見ヲ分類記述スルノ方針ニテ作成セラルルコトトナレリ

一、審議事項ノ解釋ニ關スル獨逸案

報告書ヲ如何ナル方針ニ從テ作成スヘキヤノ問題ハ先ツ五月九日ノ海軍委員會ニ於テ討議セラレタルカ右會議ニ於テ

(甲) 海軍委員會ノ報告者ハ海軍委員會カ一致ヲ見出サント試ムルハ望ム所ナルモ委員會ニ於ケル討議ノ現狀ニ於テハ報告者トシテハ各異ナレル見解ヲ採録類別スルノ外ナシトノ意見ニテ腹案トシテ主力艦ニ關シ(イ) 某々國ハ主力艦ハ三

性質ノ何レニモ適當セス(ロ)某々國ハ大型ニシテ巨砲ヲ有スルモノハ第二第三ニ該當ス(ハ)某々國ハ三性質全部ニ該當スト云フカ如ク類別スヘシト披露セリ

右ノ如ク類別記述スルノ方針ニ關シテハ我方、佛、亞、西、蘭等贊意ヲ表ス

(乙)之ニ對シ第一第二ノ性質ヲ合併スルヲ可トストノ英國案及某艦船ハ決議ノ標準ニ該當ス或ハ該當セスト簡單ニ回答スヘシトノ蘭國案アリ

(丙)米國委員ハ有用ナル報告ヲ作成セントセハ決議ノ三性質ノ意義ニ付誤解ナキヲ要スルヲ以テ先右三性質ノ解釋ヲ定ムルヲ要スト主張シ英國委員ハ右解釋ヲ明定スレハ報告作成ハ容易ナリトテ之ニ贊シ獨逸委員又之ニ贊シタルモ西、佛、伊、蘭等ハ決議ノ三性質ハ既ニ明カニシテ何等解釋ノ要ナシトテ反對シタルヲ以テ右委員會ニ於テハ如何ナル方針ヲ以テ報告書ヲ作成スルヤニ付決定スルヲ得サリキ

然ルニ同日午後ノ起草分科會ニ於テ獨逸委員ヨリ上記解釋ニ關スル提案アリ議論ハ勢ヒ右案ニ集中セラルルニ至レルヲ以テ我方、蘇、蘭委員ヨリ解釋ヲ定ムルノ要ナキコトヲ述ヘタルモ會議ハ右獨逸案ヲ討議スルコトニ同意シタルヲ以テ報告書ニハ決議ノ三性質ノ解釋ヲ記載スルコトナレリ

右獨逸案ハ「攻撃的政策ヲ取ル場合如何ナル兵器カ右政策ヲ成功セシムルモノナリヤ」トノ質問ニ答フルコトトセハ一般委員會ノ決議ニ對シ有用ナル答トナルヘシト云フニアリ

右案ハ其ノ後討議ノ結果修正ヲ加ヘラレ五月十一日第三回起草分科會ニ於テ採擇セラレタリ要旨左ノ如シ

「(イ)攻撃的政策若ハ(ロ)攻勢作戰ヲ執ル場合武器ノ特有ノ性能ニ依リ且其ノ防禦用途ヲ妨クルコトナク右政策又ハ作戰ヲ速ニ成功ニ導クコト多キ武器如何」(Conf. D/CN/C.R./10) (註)

尙第一第二ノ性質ヲ合併スヘシトノ英國案ハ各國ノ任意トスルコトニ決定シ又一個ニセントスル蘭國案ハ消滅セリ

(註) (イ)獨逸案中「攻撃的政策ヲ執ル場合有效ナル武器」トハ獨逸側ノ考ニテハ獨逸ニ禁止セラレル武器ト云フコトナルヘシ蓋シ「ヴェルサイユ」

條約軍事條項ハ獨逸ヲシテ再ヒ攻撃的政策ヲ執ラシメサル爲メ條項ナレハナリ

攻撃的政策云々ノ觀念ハ米國ノ主張タル「領土主權ヲ侵害スル攻撃アリタル場合侵略者ニ防禦者ヨリ大ナル便宜ヲ與フル特別且固有ノ性質ヲ有スル武器如何」トノ案ト近接スルモノニシテ米、獨等ハ技術的ニ攻撃的防禦的性質如何ヲ決定スルコト至難ニシテ右決定ハ政治的考慮ヲ加味セサルヘカラスト主張ス

(ロ)「攻勢作戰」云々ハ佛國カ攻撃的政策ナル觀念ヲ好マス且本作回答ハ技術的ニ明確ニナスヲ要ストノ主張ニ基クモノナリ

(ハ)「武器特有ノ性能ニ依リ」トハ米國ノ主張スル所ニシテ武器ノ攻撃的ナリヤ否ヤハ其ノ固有、內在的ノ性質ニ依ルヲ要シ單ニ物質的ニ最大若ハ最強ト云フカ如キ標準ニ依ルヘキニ非ストナス觀念ヨリ來ルモノナリ

(ニ)「防禦用途ヲ妨ケス」トハ亞國委員ノ主張シ佛國委員ノ支持セル所ニシテ侵略セラレタル場合防禦スル國ノ立場ヲ考慮スルノ要アリトノ考察ニ基ク

(ホ)「速ニ成功ニ導ク」トハ英國ノ觀念ニシテ徐々ニ成功スルモノヲ除外スルノ趣旨ナリ

獨逸案討議ノ際獨逸側ヨリ「第三ノ標準ハ解釋上困難ナシ」トノ一節ヲ含ム提案ヲナシタルニ對シ佛國委員ハ「如何ナル艦船モ如何ナル場合ニ於テモ國際法ニ違反シテ戰闘行為ヲ行ハストノ推定ノ下ニ如何ナル兵器カ非戰闘員ヲ最モ脅威スルヤ」トノ修正案ヲ出シ國際法ノ遵守ハ海軍各艦船ニ關スルモノナルモ潛水艦ニ付テハ疑惑ヲ表示スルモノアルニ依リ特ニ第三ノ標準ノ部ニ挿入セントスルモノナリト說明シタル處英國委員強ク之ニ反對シタル結果右修正案ハ通過セサリキ

二、理想的報告ニ關スル英國案

五月十一日午後ノ起草分科會ニ於テ委員會幹部ノ作成セル報告案ヲ討議ノ基礎トシテ採用セル際英國委員ハ右ノ如ク各國ノ意見ヲ分類羅列セル報告ハ之ヲ標準報告ト稱シ得ヘク右ハ恐ラク一般委員會ノ満足セサル所ナルヘシトテ所謂一致ノ意見ヲ記述セル理想報告ヲ作成スルノ要アルヲ述ヘタルカ五月十七日ノ分科會ニ於テ主力艦ニ關スル右理想報告案ヲ披露セリ之ニ依レハ「海軍上ノ利害ヲ有シ國ノ安全上海軍ヲ必要トスル國ニトリテハ主力艦ハ海軍力ノ中核ニシテ三性質ノ何レヲモ具有セス然レトモ主力艦ヲ有セス若ハ少數又ハ小型艦ノミヲ有スル國ニトリテハ主力艦ハ第一第二ノ性質ヲ具有シ艦型及備砲ノ大ナルニ從ヒ一層攻撃的ナリ」ト云フヲ主意トス

右案ハ五月十九日ノ分科會ニ於テ討議セラレタルカ何レモ一致ノ報告ヲ作成スルノ主義ニハ贊意ヲ表シタルモ(一)大國

ト小國トニ分類セル點ニ於テノ異論（伊國ハ大國ナルモ主力艦ヲ攻撃のナリト主張ス亞國ハ小國ナルモ主力艦ヲ三性質ニ該當セスト主張ス）（二）艦型ノ部分ニ於テノ異論（西國ノ如ク艦型ハ本委員會ノ權限外ナリトノ意見、我方、米國ノ如ク艦型大ナルモノハ一層攻撃のナリトノ主張ハ誤レリトノ意見）アリ原案維持ヲ主張スルモノ多カリシヲ以テ英國委員ハ採否ヲ議長ニ委スルト共ニ一致の意見ノ表示ヲ試ミタルモ成功セサリシ爲異ナレル「グループ」ヲ列舉スルモノナリトノ趣旨ヲ記述センコトヲ求ム

第三、起草分科會討議ノ際起レル主要問題

一、艦載航空機ニ關スル空軍委員會ノ決定ニ對スル英國委員ノ抗議

五月二十四日空軍委員會ハ艦載航空機ノ攻撃性ニ關スル我方提案ヲ大多數ヲ以テ可決セル處五月二十五日午前及午後ノ起草委員會ニ於テ英國委員ヨリ口頭抗議ノ次第アリ我方一應抗議ニ反對シ置キタルカ英國側ハ海軍委員會其ノ他ニ於テハ本件ヲ提出セサリキ今起草委員會ニ於ケル本件經過ヲ述フルニ左ノ如シ

（一）五月二十五日午前ノ會議

五月二十五日午前第十一回起草分科會ニ於テ報告案第一讀會ノ議事ニスルニ先チ英國委員ハ航空母艦ノ問題ハ海空混合委員會ヲ作リ審議スヘキモノト考ヘ居リタルニ拘ラス（曩ニ我方ヨリ右混合委員會設置方提言シタリ）海軍委員會ノ意見ヲ徵セスシテ空軍委員會カ艦載航空機ニ關シ決定ヲナシタルハ不都合ナリ余ハ空軍委員會ノ執レル行動ニ強硬ニ抗議スルモノナリト述ヘタリ之ニ對シ議長ハ右決定ハ予備のニシテ後ニ海軍委員會ノ報告ト「コオーディネート」スルコトナルモノト考フル旨ヲ述ヘタルカ米國委員ハ英國委員ノ說ニ贊シ本問題ハ混合委員會ニ於テ審議スヘキモノニシテ空軍委員會カ決定ヲナセハ海軍委員會ハ此ノ決定ニ影響サルルヲ以テ手續ノ問題トシテ不可ナリト論シ議長ハ右議論ヲ了知シ空軍委員會ト連絡ヲ取ルヘシト述ヘタリ

（二）五月二十五日午後ノ會議

報告案第二讀會終了後議長ヨリ空軍委員會ノ書記官ヨリ同委員會議長ノ命ニ依ル趣ヲ以テ海軍委員會ノ考慮ニ入ルル爲昨日同委員會ニ於ケル本件決定ヲ通告セル書翰（就中我方提案ノ可決及混合委員會設置ノ不必要ヲ述フ）ヲ披露シタルニ對シ英國委員ハ午前ノ會議ニ於ケルト同様右決定ニ抗議スル旨ヲ述ヘタルニ付我方ハ混合委員會ニ關スル我方ノ提案ハ何等ノ決定ニ達シタルモノニ非サルコト及航空母艦ニ關スル海軍委員會從來ノ討議ニ順ミ海軍委員會ハ空軍委員會ノ決定後ニ非サレハ其ノ意見ヲ確定シ得サルモノナルコトヲ指摘シ英國委員ノ所說ニ反對セリ之ニ對シ米國委員ハ此ノ際混合委員會設立ノ問題ヲ論スルモ實益ナク寧ロ兩委員會ノ報告書ヲ幹部會ニ於テ「コオーディネート」スル際右問題ハ起ルモノナリトテ幹部會ニ於ケル兩報告書ノ「コオーディネーション」ノ必要ナルコトヲ述ヘ和蘭委員ハ英國委員ノ所說ニ贊意ヲ表シタルモ本件處理ノ方法トシテハ幹部會ニ「コオーディネート」セシメントスル米國委員ノ說ニ贊スト述ヘ我方モ右ニ異議ナキ旨ヲ附言セリ

議長ハ双方ノ意見ハヨク了知セリト述ヘタリ

二、歐洲外河川用軍艦問題

河川用艦船問題ハ前項所述ノ通海軍委員會ニ於テ歐洲問題トシテ論議セラレタル處五月二十一日第九回起草分科會ニ於テ之ヲ歐洲外ニモ擴張スヘシトノ主張羅國委員ヨリ出テタル結果問題ハ複雑トナル虞アリシカ結局右擴張ノ問題ニハ觸レサルコトナレリ同日起草分科會ニ於ケル本件討議ノ經過左ノ如シ

羅國委員ノ提言ニ關シ米國委員ハ本問題ハ之ヲ歐洲問題トシテ考慮シタク若シ之ヲ擴張スルトキハ制限外艦船ノ問題ヲモ同時ニ攻究セサルヲ得サルコトナリ不可ナリト述ヘ英國委員直ニ之ニ贊ス洪國委員ハ河川用砲艦ニ制限ヲ加ヘタルハ平和條約ノミナレハ歐洲問題ナリト説キ我方又本件ハ局地的問題ナリト述ヘテ英米委員ノ說ニ贊シ西國委員又之ニ贊シタリ

然ルニ佛國委員ハ本軍縮會議ノ目的カ一般條約ノ作成ニアリテ局地的條約ノ作成ニ非サルコト「トリアノン」條約第百二

十條ノ問題ハ政治問題ナルコト、河川用砲艦ハ裝甲車ノ如キモノニテ本問題ハ陸軍問題ナルコト等ヲ擧ゲテ本問題カ本委員會ノ權限内ナリヤ否ヤヲ決スルノ要アリト主張セリ之ニ對シテハ獨、洪兩國委員ノ反對アリ和蘭委員又本件カ本分科會ノ權限内ナルコトヲ認ムルモ同時ニ歐洲問題ナリヤ否ヤニ關シテハ歐洲外ノ國ハ經驗ナキニ依リ意見ヲ陳述セサリシ旨ヲ記述スルコトトセハ可ナルヘシト提言ス佛國委員ハ同委員カ權限ノ問題ヲ提起セサリシハ洪國委員カ本問題ヲ抽象的ニ論シタルカ故ナルモ之ヲ歐洲ニ適用ナシトスルトキハ茲ニ問題ハ政治的トナルヘシ元來河川用砲艦ノ攻撃性防禦性カ「ダニエーブ」ト「アマゾン」ト楊子江トニ依リテ差異ヲ生スルカ如キハ理由ナキコトニシテ標準ヲ一般的トシ各國ニ適用スルカ如ク考慮スヘキナリ權限ノ問題ハ本委員會幹部會ニ委スコトトシタシト提議セリ茲ニ於テ議長ハ問題ヲ歐洲ニノミ限ルヘキヤ否ヤニ付分科會ノ意見ヲ求メタル處米國委員ハ米加間ニモ湖上砲艦ニ付問題アリ故ニ和蘭委員提言ノ如ク歐洲外ノ國ニ利害關係ナシト云フヲ得ス從テ當面ノ問題處理ノ方法トシテハ報告書ノ前文ノ如キモノヲ作リ其ノ中ニ委員會ハ本件ヲ特別ノ取扱ヲ要スル局地的問題ノ一ト認メタルコト及擴張ノ問題ハ他ノ機會ニ議スヘキモノナリト認メタルコトヲ記述セハ可ナラント述ヘ議論ノ末本分科會ノ議論ヲ見ルニ本問題ハ歐洲問題ト限定スヘキニ非サルモ多數意見ハ一般的問題トシテ討議スルヲ欲セサルモノナルコト明カトナリタリトノ趣旨ヲ記述スルコトニテ落着セリ

三、特殊事情考慮ニ關スル波蘭案

「海軍委員會ハ討議中各國ノ國防上ノ需要、地理的地位及國際義務ノ見地ヨリ問題ヲ觀察スルニ至レリ」トノ趣旨ノ波蘭提出案ハ五月十一日午後ノ起草分科會ニ於テ討議セラレ右案ニハ帝國佛國西國及蘭國委員ノ贊成アリタルカ伊國委員ハ右ハ規約第八條及條約案第五十三條ノ反覆ニ過キス不要ナルノミナラス特殊事情ヲ考慮スルトキハ軍縮ハ不可能ナリト反對シ獨逸委員ハ波蘭提案ノ内容カ海軍委員會多數ノ意見ナリシコトヲ否認シ蘇國委員ハ防禦ヲ論スルハ吾人ノ任務ニ非ス攻撃ヲ論スルカ吾人ノ任務ナリト述ヘ波蘭案ニ反對セリ波蘭委員ハ海軍委員會ノ議事録ヨリ特殊事情ヲ考慮スヘシトノ諸國委員就中獨逸委員ノ主張ヲモ引照シ海軍委員會ニ於ケル多數ノ意見ヲ事實トシテ述ヘタルニ過キスト反駁シ結局報告者ニ

於テ本件ノ起草ニ當ルコトナレリ

第四、報告書ノ確定

起草分科會ノ提出セル報告案 (Conf. D./C.N./30) ハ七月二十七日第十五回海軍委員會ニ於テ審議セラレタリ

議長ハ報告案記載ノ意見ニシテ他ヲ拘束スルモノニ非サル旨ヲ斷リ一章毎ニ討議ニ附ス

前文ハ原案通採擇第一章主力艦ニ付テハ新ニ聲明ニ參加スル國名ヲ附加シタルノミニシテ他ハ變化ナク採擇第二章航空母艦ニ付テハ議長ヨリ前文ヲ朗讀シ本件ハ三專門委員會ノ幹部會ニ於テ各委員會ノ意見ヲ「コオーディネート」スル可能性ヲ審査スルコトトナルヘク其ノ結果必要アラハ海軍委員會ヲ開クヘキコトヲ述ヘ他ノ新國名ノ追加ト重要ナラサル修正トアリタル後採擇第三章潛水艦ニ付テハ新國名ノ追加ノ外實質ニ影響ナキ修正ヲ加ヘ採擇第四章機雷ニ關シテハ新國名ト和蘭トノ聲明トヲ追加シテ採擇第五章河川用艦船ニ關シテハ羅國委員ノ本問題ヲ擴張スヘシトノ趣旨ノ聲明ヲ加ヘ採擇セラレ右ニテ本件報告書ハ航空母艦ノ部ノ前文ヲ除キ確定セリ

越エテ六月十一日第二十回海軍委員會ニ於テ議長ハ航空母艦問題ニ付テハ海軍委員會ハ空軍委員會ノ決定ヲ待ツ旨記述アル處三專門委員會及化學戰特別分科會幹部會會合ノ結果各委員會報告書ハ修正セス其ノ儘一般委員會ニ提出スルコトニ決定セル旨ヲ述ヘ空軍委員會ノ決定アリタルヲ以テ上記ノ部分ヲ修正スルノ要アリトテ修正案ヲ披露シタル處異見ナク採擇セラレタルヲ以テ茲ニ本報告書ハ終局的ニ確定セリ(報告書ハ五月二十八日附ナルモ右文書ニ掲載セラルル航空母艦ニ關スル部分ハ右六月十一日ノ海軍委員會ニテ決定セラレタルモノナルコト注意ヲ要ス)

尙右報告確定前後質的軍縮問題ニ關シ濠洲政府(六月五日附)及波斯政府(六月十六日附)ヨリ意見ノ表示アリタルモ報告書ハ之ヲ修正スルコトナカリキ(註)

(註) 濠洲政府ノ意見ハ主力艦ニ付日、英、米ノ共同聲明ニ贊シ航空母艦及潛水艦ニ付英、亞共同聲明ニ贊シタル理由ヲ述ヘタルモノナリ(第二十回海軍委員會議事參照)

波斯政府ノ意見ハ倫敦條約ノ規定ナ一般のトナシ且之カ違奉セラルコトナ條件トシ小型潛水艦ノミ非攻撃的ナリトナスモノナリ同政府ハ報告書ヲ修正シ得サルニ於テハ右意見ヲ報告書ニ附屬セシメンコトヲ要ス (Conf. D. 127)

第四項 報告書ノ大要

一般委員會ニ對スル報告書 (Conf. D. 121 [Conf. D./C.N./304]) ハ序論、第一部主力艦、第二部航空母艦、第三部潛水艦、第四部自働觸發機雷及第五部河川用軍艦ノ六ニ分ル

第一、序論、主力艦、航空母艦及潛水艦

一、序 論

序論ハ先ツ四月二十二日一般委員會ノ決議ニ從ヒ特ニ最モ攻撃的ナルカ、國防破壊ニ最モ有效ナルカ若ハ非戦闘員ニ最モ脅威的ナル海軍兵器ヲ決定スル爲海軍委員會カ四月二十六日ヨリ會合附議セル經過ヲ略述シ次テ右討議ニ際シ意見區々ニ分レタル理由ノ一ハ一般委員會ヨリ委託セラレタル審議事項ノ意義ニ付解釋ヲ異ニセルカ爲ナリトテ右解釋ニ關スル主ナル意見ヲ記述シタル後海軍委員會ノ採擇スルニ至レル左記要旨ノ決議ヲ載セ終リニ全會一致ニ達センカ爲努力セルモ成功セサリシヲ以テ諸全權部單獨若ハ共同ノ聲明ヲ羅列セル形式ニテ本報告ヲ編纂セサルヲ得サリシ旨ヲ述フ

「海軍委員會ハ殆ト總テノ海軍兵器カ或程度迄攻撃的タルト同時ニ防禦的ノ性質ヲ有スルコトヲ知レルニ依リ

此等ノ兵器カ主トシテ攻撃的性質ヲ有スルヤ將又防禦的性質ヲ有スルヤハ各國々情ニ依リ異ナルヲ以テ純専門の見地ヨリ其ノ標準ヲ定ムルコト不可能ニハ非ストスルモ至難ナルコトヲ確信スルニ至リタルニ依リ

一般委員會ヨリノ質問ニ對シ左ノ解釋ヲ附スルコトニ依リ右質問ニ最モ有益ナル回答ヲ與フルコトヲ得ヘシトノ結論ニ到達セリ

一國カ(イ)武力の攻撃政策ヲ執ル場合若ハ(ロ)攻勢作戰ヲ企圖スル場合兵器ノ特有ノ性質ニ依リ且兵器ノ防禦的のニ用ヒラルコトヲ妨ケスシテ右政策若ハ作戰ヲ迅速ニ成功ニ導クコト最モ多キ武器如何」(註)

(註) 審議事項解釋ノ問題ニ付テハ本節第三項參照

二、第一部 主力艦

日、英、米及濠洲全權部共同聲明

主力艦ハ(イ)特ニ最モ攻撃的ナラス(ロ)國防破壊ニ最モ有效ナラス(ハ)非戦闘員ニ最モ脅威的ナラス、艦型及備砲口徑ノ縮少ハ現在ノ審議事項ニ屬セス(註)

(註) 主力艦ニ付テハ我方ヨリ單獨ノ聲明トシテ報告ニ挿入方提言シ置キタルカ (Conf. D./C.N./C.R./18) 五月十九日起草分科會ニ於テ報告者ヨリ日、英、米ノ意見ヲ一トナシ得サヤトノ提言アリ之ニ從ヒ三國專門家間ニ協議ヲ遂ケタル結果一ノ共同聲明ヲ爲スコトナレルモノナリ濠洲政府ハ後ニ至リ之ニ加入セリ

共同聲明全文左ノ如シ

- 一、主力艦ハ他ノ艦船ニ比シ德力ナル戦闘力ヲ有スルモ他ノ艦船ト離レテ單獨作戰スルカ如キ構造ヲ有セス
- 二、重大ナル海事の利害關係ノ重大ナル海外交通線又ハ防禦スヘキ長大ナル海岸線ヲ有シ且艦船ニ國家ノ安全ヲ託スルコト大ナル國家ニ對シテハ主力艦ハ欠クヘカラサル國防ノ骨幹ナリ
- 三、主力艦ハ通商ニ對シ單獨作戰スルニハ最モ不利ナル兵器ナリ
- 四、故ニ主力艦ハ最モ特ニ攻撃的ニシテ最モ國防ヲ破壞スルニ適シ最モ非戦闘員ヲ脅威スルノ性質ヲ有スルモノト云フナ得ス
- 五、主力艦排水量及備砲口徑縮少ノ問題ハ一般委員會ニ於テ先ツ審議セラルヘキ主義ノ問題ナルヲ以テ委員會ノ目下ノ討議スヘキ事項以外ナリト思考ス

伯國全權部聲明

日、英、米、濠洲全權部ノ聲明ニ同意ナルモ攻撃ノ場合ニ於テハ艦型及備砲ノ大ナルニ從ヒ主力艦ハ海軍力ニ依ル防禦及沿岸防禦ニ一層有效ナリト考フ

伊國全權部ハ左ノ聲明ヲナセリ

主力艦ハ特ニ攻撃的、國防破壊ニ有效ニシテ且間接ニ非戦闘員ニ最モ脅威的ナリ艦型及備砲口徑ノ縮少ハ海軍委員會ノ審議事項ニ屬セス

支那全權部ハ伊國全權部ノ聲明ヲ支持セリ

獨、亞、勃、丁、西、芬、佛、希、諾、蘭、波、羅、暹、瑞、土、蘇及塞國全權部ハ左ノ結論ニ一致セリ

一定噸數以上及備砲一定口徑以上ノ主力艦ハ（イ）特ニ最モ攻撃的（ロ）國防破壊ニ最モ有效（ハ）非戦闘員ニ對シ最モ脅威的ナリト考ヘサルヘカラス

左ノ全權部ハ右聲明ニ同意スルニ當リ左ノ如ク其ノ態度ヲ表明セリ

獨逸全權部ハ一萬噸ヲ超ユ且備砲口徑十一吋ヲ超ユル主力艦ハ一般委員會ノ標準ニ該當スト陳述セリ

西國及羅國全權部ハ口徑八吋ヲ超ユル砲ヲ搭載スル一萬噸ヲ超ユル主力艦ハ三標準ニ該當スルモノトナサンコトヲ提議セリ

佛國全權部ハ主力艦ノ一定噸數ハ（此ノ噸數ヲ超ユルトキハ三標準ニ該當スルニ至ル）主力艦ニ充分ナル防護ヲ確保スルニ必要ナル噸數ナリト思考セリ

蘇國全權部ハ攻撃的海軍兵器中ニハ十二吋ヲ超ユル砲ヲ搭載スル排水量一萬噸ヲ超ユル軍艦ヲ全部網羅スヘキコト竝特定艦型ノ「ワシントン」巡洋艦モ防禦的兵器ト云フヲ得サル質的特性ヲ有スルコトヲ陳述セリ

亞國、佛國、波蘭及羅國全權部ハ一國カ攻撃政策ヲ執ルトキハ一切ノ主力艦ハ（イ）特ニ攻撃的（ロ）國防破壊ニ有效（ハ）非戦闘員ニ對シ脅威的ナリト陳述セリ

三、第二部 航空母艦

航空母艦ニ關シテハ海軍委員會、空軍委員會ノ報告（Conf. D. 123, Part I, Paragraph 1 (d) Part II）中右「ブラッラン」ニ關スル聲明ニ對シ注意ヲ喚起ス

亞國、濠洲及英國全權部ハ左ノ意見ヲ表示セリ

航空母艦ハ夫自身攻撃的目的ニ使用スルヲ得ス航空母艦ニ搭載セラルル航空機カ最モ攻撃的、國防破壊ニ最モ有效若ハ

非戦闘員ニ最モ脅威的ナリヤ否ヤノ問題ハ搭載機ノ型及種々ノ型ノ航空機ノ攻撃性ニ關スル空軍委員會ノ決定ニ懸ルモノナリ

米國全權部聲明

航空母艦ハ一般委員會ノ云フ三標準ノ範圍ニ入ラス艦型及備砲口徑ノ縮少ハ現在審議事項ノ範圍外ナリ

佛國全權部ハ左ノ聲明ヲナセリ

爆撃機ヲ搭載セストセハ航空母艦ハ（イ）特ニ攻撃的ナラス（ロ）國防ニ特ニ脅威的ナラス（ハ）非戦闘員ニ特ニ危険ナラス

亞國及佛國全權部ハ一國カ攻撃的政策ヲ執ルトキハ一切ノ航空母艦ハ（イ）特ニ攻撃的（ロ）國防破壊ニ有效（ハ）非戦闘員ニ脅威的ナリト陳述セリ

獨、支、丁、西、芬、伊、蘭、諾、波、羅、暹、瑞、蘇、土及塞國全權部ハ第一、第二及第三問ニ對スル其ノ回答ハ肯定的ナリト陳述セリ

獨逸全權部ハ航空母艦ハ充分ナル防空設備ヲ有セサル國ニトリテハ三標準ノ意義ニ於テ特ニ有效ナリト思考セリ
波蘭全權部ハ右十五國聲明ニ同意スルト共ニ航空母艦ノ特質ハ狹キ海面ノ場合ニ於テ特ニ適用シ得ヘキモノナリトノ見解ヲ有ス

蘇國全權部ハ右十五國聲明ニ同意スルト共ニ右ハ航空機運搬ノ他ノ一切ノ特別ナル手段ニ均シク適用アルモノト思考セリ

希國全權部ハ十五國共同聲明ノ第一節（航空母艦ハ爆撃機ノ移動性ヲ増スモノナリトノ節）ニ賛同セリ
日本及暹羅國全權部ハ左ノ聲明ヲナセリ

航空母艦竝ニ歸着甲板又ハ臺ヲ有スル艦船ハ特ニ最モ攻撃的ニシテ國防破壊ニ最モ有效ニシテ最モ非戦闘員ヲ脅威スル兵

器トセサルヘカラス（註）

（註） 本聲明ハ露ニ報告書ニ挿入方我方ヨリ申入レタル案文（Conf. D/C.N./E./18）ニ條辭上ノ修正ヲ加ヘタルモノニシテ選羅全權部ハ後ニ加入セルモノナリ

聲明全文左ノ如シ

航空母艦並ニ歸着甲板又ハ臺ヲ有スル艦船ハ特ニ最モ攻撃的且國防破壊ニ最モ有效ニシテ又最モ非戦闘員ヲ脅威スル兵器トセサルヘカラス

（一） 大ナル移動性飛行場ニシテ艦隊ト離レテ單獨行動シ得ル性能ヲ有スルヲ以テ奇襲ニ適シ且海岸ヨリ離レテ遠ク内地ニ危害ヲ加フルコトヲ得

（二） 本兵器ノ存在ハ防禦スヘキ地點ヲ増加シ各國相互間ノ軍備關係ヲ複雑ナラシム

（三） 艦隊ノ偵察観測能力特ニ攻撃力ヲ増大シ又沿岸航空隊ノ存在スル相手國沿岸近ク作戰スルコトヲ得セシメ艦隊ノ進攻性ヲ増進ス

（四） 本兵器ハ防禦のヨリモ進攻のニ使用スルヲ有利トスル特性ヲ有ス、沿岸防備ノ爲ニハ沿岸航空隊ニ依ルナ一層有效且經濟的トス

（五） 新兵器ナルヲ以テ豫想外ノ破壊作用ニ使用セザレ得ヘシ

四、第三部 潜水艦

亞國、濠洲及英國全權部ハ左ノ聲明ヲナセリ

潜水艦ハ非戦闘員ニ最モ脅威的ト見做スヘキ艦型ト云ハサルヲ得ス第一標準ニ對スル吾人ノ回答ハ「否」ナリ吾人ハ潜水艦ハ國防破壊ニ最モ有效ナルモノトシテ他ノ艦種中ヨリ抽出サレ得ルモノトハ思考セス

加奈陀全權部ハ右聲明ニ賛同セリ

米國全權部聲明

潜水艦ハ（イ）特ニ最モ攻撃的（ロ）國防破壊ニ最モ有效（ハ）非戦闘員ニ對シ最モ脅威的ナル海軍兵器ナリ艦型及備砲縮少ノ問題ハ現在審議事項外ナリ

伯國全權部ハ米國全權部ノ意見ニ賛同スルト共ニ下記ノ説明ヲ追加セントヲ希望ス「機雷敷設潜水艦ニ付テハ單ニ外國領水ニ於テ行動スルノ目的ヲ有スルノ故ヲ以テ其ノ防禦的性質ヲ失フモノトナスヘキニ非ス」

蘇國全權部ハ下記ノ説明ヲ加ヘテ米國全權部ノ意見ニ賛同ス「艦型ノ縮少ノ問題ハ審議事項外ナリト雖モ米國全權部ノ意

見ハ六百噸ヲ超ユル潜水艦ニ特ニ適用アルモノナリ」

西、芬、佛、伊、「ラトヴィア」、波蘭、羅、暹及「ヴェネツエラ」全權部ハ左ノ意見ヲ表示セリ

（イ）潜水艦ハ同時ニ攻撃的若ハ防禦的ノ兵器ノ性質ヲ有ス（ロ）潜水艦ハ國防ニ貢獻スルト同時ニ敵國々防破壊ニ貢獻ス（ハ）倫敦條約第四編ノ規定ニ一切ノ國力加入スルニ於テハ潜水艦ハ非戦闘員ニ對シ特ニ脅威的ナラス

芬、佛、「ラトヴィア」、波蘭、羅及「ヴェネツエラ」全權部ハ潜水艦ハ（イ）特ニ攻撃的ナル兵器ニ非ス（ロ）國防破壊ニ特ニ有效ナル兵器ニ非ス（ハ）非戦闘員ヲ脅威スル兵器ニ非ストノ結論ニ達シタリ

西國代表ハ右五國ノ結論ヲ支持スルト共ニ千噸ヲ超ユル潜水艦ハ特ニ最モ攻撃的ナリト思考セリ

支那及伊國全權部共同聲明

（イ）主力艦カ艦隊ノ一部ヲ成ス場合ニハ潜水艦ノ建造ハ防禦的目的ノ爲必要ナリ（ロ）主力艦カ艦隊ノ一部ヲ成ササル場合ニハ潜水艦ノ建造ハ特ニ攻撃的性質ヲ有スヘシ

芬、佛、伊及「ヴェネツエラ」全權部共同聲明

排水量ハ潜水艦ノ攻撃的性質ヲ決定スル標準ニ非ス

亞國及佛國全權部共同聲明

一國カ攻撃的政策ヲ執ル場合ニハ潜水艦ハ（イ）特ニ攻撃的（ロ）國防力破壊ニ有效ナリ

日本全權部ハ左ノ聲明ヲナセリ

潜水艦ハ（イ）特ニ攻撃的（ロ）國防力破壊ニ有效（ハ）非戦闘員ニ對シ脅威的ト云フヲ得ス潜水艦ノ防禦的性質ハ艦型ニ依リ變化セス（註）

（註） 本聲明ハ我方ヨリ報告書ニ挿入ノ爲提出セルモノト同一ナリ（Conf. D/C.N./C.R./18）

聲明全文左ノ如シ

潜水艦ノ性能ハ水上艦船ニ比スレハ水上、水中共ニ其ノ能力極メテ食弱ニシテ他ノ艦船之ニ接近スルニ當リ始メテ其ノ攻撃力ヲ發揮スルヲ得ルニ過キ

ス從テ潛水艦ハ防禦的兵器ニシテ特ニ劣勢海軍國ニトリテハ國防上必須ノ兵器ナリ 潛水艦カ非戦闘員ニ對シ脅威ヲ與フルコトアルヘシトノ危惧ハ國際法ニ依リテ除去セラレタリ

以上ノ見地ヨリ潛水艦ヲ以テ特ニ攻撃的ニシテ國防上破壊スルニ適シ非戦闘員ヲ脅威スルノ性質ヲ有スルモノト云フヲ得ス 潛水艦ノ防禦的性能ハ艦型ニ依リ變化スルモノニ非ス其ノ最良トスル艦型ハ各國特殊ノ國情ニ依リ異ナリ帝國ニ關シテハ其ノ最大限ハ二千噸ヲ下ルヘカラス

獨逸全權部ハ「ヴェルサイユ」條約ハ潛水艦ヲ特ニ攻撃的兵器トナシタリト指摘セリ

丁、希、蘭、葡、瑞、土及塞國全權部共同聲明

(イ) 大型潛水艦ハ特ニ最モ攻撃的ナリ (ロ) 大型潛水艦ハ國防破壊ニ最モ有效ナリ (ハ) 潛水艦ハ他ノ艦船ト同様國際法ヲ遵守スル限リ非戦闘員ニ特ニ脅威的ナラス

蘭國全權部ハ右聲明ヲ受諾スルト共ニ特ニ沿岸及港灣防禦用ニ充ツルニ足ル噸數ハ水上二百噸ヲ超ユルヘカラスト考フ

第二、自働觸發機雷及河川用軍艦

一、第四部 自働觸發機雷

報告書ハ海軍委員會ハ諸全權部ノ要請ニ依リ本問題ヲ審議セルモノナルコトヲ冒頭シ次テ海牙條約第八ノ規定ヲ引キタル後大戰ノ經驗ハ右規則カ非戦闘員ヲ保護スルニ足ラサリシヲ證シタル處一般委員會ノ決議ハ海軍委員會ニ於テ本問題ヲ攻究スルノ好機會ヲ與ヘタルモノナリト述ヘタル上海軍委員會ノ意見トシテ

(一) 自働觸發機雷ハ國防破壊ニ特ニ有效ナラス

(二) 決定セラルヘキ沿岸水帶外ニ敷設セラレタル自働觸發機雷ハ非戦闘員ヲ極メテ大ナル危險ニ曝スモノナリ右ハ必要ナル告知ヲナサス若ハ自由ナル航海ニ必要ナル海路ヲ敷設セラレタル場合ニ於テ特ニ然リトス

トノ結言ヲ掲ケ終リニ全權部各個ノ見解ヲ記述ス右ノ内最モ重要ナルハ亞、米、伊及英國全權部ノ意見ニシテ右ハ公海ニ

敷設セラレタル機雷ハ潛水艦ニ對シ有效ナルヲ以テ潛水艦ノ廢止ヲ條件トシテノミ右敷設禁止ヲ勸奨シ得トナスモノナリ 其ノ他ノ意見ハ (一) 機雷敷設ノ範圍 (二) 機雷ニ使用國ノ「マーク」ヲ附スヘシトノ主張 (三) 決定セラルヘキ沿岸水帶」ナル句ノ代リニ「公海」ナル語ヲ使用スヘシ等ノ主張ニ關ス

二、第五部 河川用軍艦

報告書ハ本問題ニ關シ二個ノ主張アリ一ハ洪國全權部ノ主張ニシテ (獨、伊、蘇國全權部之ヲ支援ス) 特ニ歐洲河川上ニ使用ノ目的ヲ以テ建造セラレタル二百五十噸以上備砲四、一吋以上ノ水上艦ハ一般委員會決議ノ三性質ニ該當スルモノナリトナスニ反シ他ハ波蘭、羅國及塞國全權部ノ主張ニシテ斯クノ如キ河川用軍艦ハ三性質ノ何レニモ該當セストナスモノナリト述ヘタル上海軍委員會ノ意見トシテ右ノ趣旨ヲ結言ス

洪國委員ノ提議ニ依レハ本問題ハ歐洲河川ニ關連シテノミ起レルコトヲ認メサルヲ得スト雖モ一般委員會決議ノ文言ノ一般のナルニ鑑ミ右決議ニ回答スルニ當リテハ一層廣汎ナル見地ヨリ審議スルコト避クヘカラスト考フ右ハ此ノ種艦船カ他ノ大陸ニモ存在スルカ爲ナル處廣汎ナル見地ヨリ審議セントセハ本問題ニ影響ヲ及ボス此等大陸ノ總テノ特殊事情ヲ考慮セサルヘカラス然ルニ之カ爲ニハ海軍委員會ハ其ノ所有セサル資料ヲ入手スルヲ要スルノミナラス本問題カ陸軍兵器及沿岸砲ニ關スル問題ヲモ含ムカ故ニ此ノ種資料ヲモ亦入手スルコト必要ナリ

依テ海軍委員會ハ「モニター」艦及河川用軍艦ニ關スル問題ニ付テハ意見ヲ述ヘスシテ唯右ノ事情ヲ一般委員會ノ注意ニ上スニ止ムルコトニ決定セリ

第三節 專門諸問題

第一項 制限外艦船

一、前 文

條約案第一附屬書前文ハ海軍委員會ニ於テ當分討議セサルコトナリ居レリ

二、現行規格ノ修正

制限外艦船ノ規格ニ關シテハ伊國及獨逸其ノ他ノ修正提言アリ海軍委員會ハ討議ノ結果之ヲ小委員會ニ附託シタル處右小委員會ハ現行規定ノ修正ハ之ヲ延期スヘキ旨ヲ決定シ六月十一日ノ海軍委員會ハ之ヲ承セリ尙右修正ニ影響ナキ部分ハ一應條約案ノ儘採擇セラレタリ(六月三日ノ海軍委員會議事參照)之ヲ細論スレハ左ノ如シ

(一) 伊國 提案

條約案ハ制限外ノ艦船トシテ(イ)六百噸以下ノ水上艦(ロ)六百噸乃至二千噸ノ水上艦ニシテ六吋砲ヲ搭載セサルモノ、速力二十節ヲ超ユル様設計セラレサルモノ其ノ他ヲ舉ク

伊國提案ハ(イ)百噸以下ノ水上艦船(ロ)六百噸以上二千噸ノ水上艦ハ速力十八節トセンコトヲ提議セリ(Conf. D/C 2/35)本提案ハ六月二日ノ海軍委員會ニ於テ討議セラレタルカ支、丁、芬、獨、洪、和、瑞、蘇ハ伊案ヲ支持シ日、英、佛、亞、波、荷、羅、西ハ伊案ニ反對シ贊否ノ意見相半シタルヲ以テ議長ハ追テ設立セラルヘキ小委員會ニテ本件ヲ討議スルコトトナルヘシト討議ヲ打切りタリ

(註) 六月二日委員會ニ於ケル主ナル意見左ノ如シ

伊國 伊國提案ハ倫敦會議ノ際及準備委員會ニ於テ伊國ノ主張シタル所ニシテ六百噸以下ノ艦船モ狭キ海面ニ於テハ極メテ攻撃的ナリ六百噸ヲ百噸ニ低下セントスルハ近代造船術ノ進歩ニ伴フ例ヘハ六百噸ニテ五十節行動半徑二千五百哩三、九吋砲二門魚雷發射管四個ヲ裝備スルカ如キ艦船ノ出現豫想セラルヘク斯クテハ海軍國間ノ均衡ヲ失フニ至ルヘシ

條約案(ロ)ニ規定スル艦ハ商船ニ大ナル脅威タルヘキヲ以テ近代商船ノ多數ノ速力タル十八節ヲ提議セル所以ナリ

帝國 日本全權部ハ條約案ノ條文ヲ支持スルモノナリ其ノ理由左ノ如シ

(一) 英國委員所説ノ如ク條約案ハ一九二七年ノ審判會議以來權電審議ヲ重キタルモノニシテ今之ヲ變更スヘキ理由ナシ

(二) 六百噸以下ノ小艦船ハ航洋作戰ニ通セサルヲ以テ之ヲ制限スルノ要ナシ日本ハ多數ノ島嶼ヨリ成リ海岸線ハ著シク長大且海上ノ天候甚タ不真ニシテ艦艇乗員ノ危險ハ常ニ其大ナリ故ニ日本ノ如キ國家ニトリテハ小艦艇ニテハ任務ノ遂行不可能ニシテ條約案ノ數字ハ日本ノ同意シ得ヘキ最少ノモノナリ

(三) 他種ノ艦艇ト關連スルコトナク本艦船ノミヲ論スルハ正當ナラス特ニ大型商船ハ戰時直ニ使用シ得ルモノナルニ留意スルヲ要ス即チ條約案以下ニハ其ノ速力及備砲口徑ヲ縮少スルコトハ不當ニシテ條約案ノ數字ハ最大限度ナリ

尙日本全權部ハ右(イ)ニ關シテノミナラス第一附屬書全部ニ付條約案ノ維持ヲ主張スルモノナリ

佛國 佛國ハ母國ヨリ隔在セル植民地ナシ且海岸線長大ナリ即チ母國植民地間及植民地相互間ノ「コンヴォイ」ニ隨伴シ且沿岸防禦ノ爲此ノ種艦船ヲ必要トス加之此ノ種艦船ハ技術的ニ他艦種ニ比肩スルヲ得ス又優秀商船アル今日速力ハ二十節ヲ適當トス即チ佛國ハ條約案維持ヲ可トス

瑞典 伊國提案ノ大綱ニ贊ス瑞典委員ハ(ロ)ノ最大ナル噸數二千噸ヲ六百噸トスルモ可ナリ考フ此種艦船ハ之方所有ヲ禁止スル理由ナキモ之ヲ保有總噸數中ニ算入スルヲ要ス其ノ理由次ノ如シ(イ)狭キ海面ニテハ大ナル脅威ヲ得(ロ)河川川艦船トノ比較取レス(ハ)非戦闘員ヲ脅威スル機雷數設ニ適スルハ此ノ種艦船ナリ

英國 制限外艦船ノ問題ハ一九二七年慎重政究ノ結果類別困難且戰鬥力微小ニシテ海軍力ノ均衡ヲ破ラサル小艦船ヲ制限外トナシタルモノナリ諸委員ハ此ノ種艦船無制限建造ノ脅威ニ付逃ヘタルカ右ハ誇大ナリト考フ現存艦船ヲ見ハ此等ハ平時ノ海上警察ノ爲ナルコトヲ知ラン困難ハ同一規則ヲ需要ナレバ各國ニ一律適用センコトニアルヲ以テ特殊條約ヲ作ルコトニ力ムヘキナリ

米國 米國全權部ハ其ノ最終的意見ヲ留保ス(大體英國ト同様ノ意見ヲ述フ)制限外艦船(ロ)ニ關スル伊國提案ハ速力二十節ヲ十八節トスルニアルヲ以テ(ロ)ノ他ノ性質ハ修正ノ要ナシトナスモノナル(シ然ルニ(ロ)ニ屬スル艦船ニ課セラレタル最重要ナル條件ハ魚雷發射ノ設計等ヲサササルコトニアリ仍テ問題ハ六百噸以下ノ水雷艇建造ハ可能ナリヤ否ヤニ歸着スヘシ米國全權部ハ茲ニ妥協ノ余地アリト考フ

(二) 獨逸 提案

獨逸提案ハ條約案第一附屬書(ロ)ノ(一)及(二)ノ(一)ノ口徑六吋ヲ四吋ニ縮少セントスルモノナリ(Conf. D/C.N./35)本提案ハ六月二日ノ海軍委員會ニ於テ討議セラレタルカ明カニ之ニ贊成スルモノ芬、支、蘇、之ニ反對スルモノ日、英、佛、米、伯等ニテ一致ヲ見ス且本問題ハ商船武裝ノ問題決定セサレハ討議シ得ストノ主張ヲ有スルモノ(波、瑞)アリシ爲本問題ハ未決ノ儘トナリテ殘ルニ至レリ(註)

(註) 右海軍委員會ニ於ケル主要意見左ノ如シ

獨逸 備砲四吋ヲ提議セルハ驅逐艦ノ定義ニ於テ獨逸カ四吋ヲ提案セルカ故ニシテ又條約案ノ定義ニ於テ驅逐艦備砲五吋トセルヲ以テ制限外艦船トシテ六吋ヲ搭載シ得ヘキモノニ非スト思考スルカ爲ナリ

獨逸ハ商船上ノ砲ヲ四吋トスル意圖ナリ若シ制限外艦船ノ砲ヲ六吋トセハ特ニ小海軍國ハ其ノ一切ノ艦船ニ六吋ヲ搭載セサルヲ得サルニ至リ軍縮ノ目的ニ副ハサルヘシ

帝國 帝國全權部ハ條約案ノ維持ヲ主張ス
佛國 條約案ヲ維持スルヲ要ス 猶佛國ハ條約案中定義ノ部ト段即チ輕水上艦ハ六吋砲ヲ搭載ストノ定義ヲ採用スルカ故ニ本件(ロ)級ノ備砲モ六吋ヲ變
更スルヲ得ス

英國 條約案ヲ維持スルヲ要ス 制限外艦船ト雖モ海軍艦船タル以上其ノ機能ヲ滿スモノタラサルヘカラス而シテ右ハ戰時ノ急造艦ニ對抗スルヲ要ス實
驗ニ依レハ大ナル困難ナク急造シ得ル砲ハ六吋ニシテ六吋ヲ超ユルモノハ機動力ニ非サレハ操作スルヲ得ス尙備砲口徑ニ關スル佛國委員ノ所説ハ正
當ナリ

米國 倫敦條約ハ維持スルヲ要ス各全部ニ於テ委員會ノ幹部會ニ提案ヲ提出シ妥結ヲ計ランコトヲ提言ス
西國 制限外艦船ノ備砲口徑ハ驅逐艦ノ備砲ト同一若ハ小ナランコトヲ提言ス

(三) 其ノ他ノ提案

條約案ニ對シテ尙第一附屬書(ロ)ノ(五)トシテ(ハ)ノ(五)ト同様「装甲板ニ依リ防護セラレタルコト」ヲ加フヘシト
ノ洪國提議及(ロ)ノ(六)トシテ(ハ)ノ(六)ト同様「機雷ヲ敷設スル樣設計セラレ又ハ裝置セラレタルコト」ヲ加フヘ
シトノ丁抹提議ハ暫ク討議ヲ延期セラレタリ

(四) 諸提案ノ小委員會ニ於ケル審議及決定

六月三日ノ委員會ハ敍上伊國、洪國、丁抹提案及(ロ)ニ關スル最高噸數低下ノ問題(瑞典委員提言)ハ之ヲ設立セラルヘ
キ小委員會ニ附託スルコトセルカ(右修正ヲ別トシ其ノ他ノ部分ハ全部一應採擇セラレタルコト上述ノ如シ)本問題ハ
米國側ノ主張ニ依リ小委員會ニ於テ審議スル前日、英、米、佛、伊及瑞ノ六海軍專門家間ニ懇談ヲ行フコトナレリ右懇
談會ハ六月八日及九日會合シ妥協點ヲ見出サント試ミタルモ不可能ナルコト明カトナリシヲ以テ如何ナル形式ニテ委員會
ニ提出スヘキ報告案ヲ作成スヘキヤヲ考慮シ一案ヲ妥結セリ

(註) 懇談會ノ席上瑞典委員ハ小國側ハ倫敦條約規定ヨリ更ニ嚴格ナル制限ヲ希望スルモノニシテ例ヘハ蘇國力莫大ナル此ノ種艦船ヲ有スルハ「バルチック」
クシ諸國ノ等閑ニ附シ得サル所ナリ特殊條約ヲ結ヘハ可ナルカ如キモ右條約ニハ何國ト何國トチ一「グループ」トスルヤニ付問題アルノミナラス何レ
ノ「グループ」ニモ加入チ欲セサル國モアルヘキヲ以テ問題ハ簡單ニ非スト述ヘ英國委員ハ條約案維持ヲ可ナリト考フルモ(イ)級ナ更ニ二分シ第一種
ハ六百噸乃至百噸第二種ハ百噸以下トシ第一種艦ニハ魚雷發射管ヲ除去スルコトシ(右ハ六百噸級ノ艦ハ對潛水艇用サイトノ立前ニ立脚ス)第二種艦

ハ武裝等全然無制限トスルノ案ヲ考慮シ得ヘシト提言セリ佛國委員ハ制限外艦船問題ハ保有量ノ見据エ付ク迄決定シ得スト述ヘ我方又保有量問題決定
迄及商船武裝問題決定迄ハ本問題ハ解決シ得ヘキモノニ非スト主張セリ

右妥協案ハ六月十日ノ小委員會ニ於テ些少ノ修正ヲ採擇セラレ更ニ六月十一日ノ海軍委員會ニ於テ丁承セラレタリ要
旨左ノ如シ

- (イ) 現在ニ於テハ此ノ種艦船中ニハ艦隊ノ戰鬪力ヲ著シク増加セサル艦船ヲ含マシメントスルモノナリ
- (ロ) 制限外艦船ナル一類別ヲ設ケタルハ輕微ナル戰鬪任務又ハ補助任務ヲ遂行スル爲ノ不可缺ナルニ拘ラス其ノ多種多
樣ナル爲之ヲ制限外トスルノ外ナキカ爲ナリ
- (ハ) 制限外艦船ニ關スル現規定ハ倫敦條約ニ付テハ適當ナルモ特殊ノ地域ニ於テハ兵力ノ均衡ヲ破ル虞アルヲ以テ一
般軍縮條約トシテハ適當ナラス
- (ニ) 海軍委員會ハ條約案ノ規定ヲ改正セントスルカ如キ問題ハ制限スヘキ艦船ノ定義及其ノ他關係事項ノ決定アル
迄(註)延期セサルヘカラスト思考ス

(註) 其ノ他關係事項トアルハ主トシテ前記保有量問題及商船武裝問題ヲ意味スルモノニシテ六國海軍懇談會ニ於テ我方ノ主張ニ依リ挿入スルコト
トナルモノナリ

第二項 定 義

一、審議ノ經過

三月十四日ノ海軍委員會ハ代換規則ノ審議ヲ開始シタルモ之ト密接ノ關係アル定義ノ問題先決ヲ主張スルモノアリ結局次
回ニ於テハ兩者孰レヲ先議スヘキヤヲ劈頭票決スルコトトナリシ處其ノ後幹部會ニ於テ定義ヲ先議スルヲ可ナリト認メ三
月十五日ノ委員會ニ其ノ旨提議シタル結果本件定義ノ問題ハ同十五日ノ委員會ニ於テ討議スルコトナレリ同日委員會ノ
經過概要左ノ如シ

議長ヨリ定義ノ問題ニ關スル蘇、獨、英、西、亞及洪諸國ノ提案ヲ披露シ獨逸提案中ノ主力艦ノ部ヨリ討議ヲ開始セン

トセル處獨逸委員先ツ本問題全般ニ互ル一般討議ヲナサンコトヲ提言シ其ノ通決シ獨、蘇、西、英各委員ノ聲明アリ就中英委員ハ當日ノ海軍委員會ニ於テハ文言ノミヲ討議シ數字ニ關スル討議ナキモノト了解セリ艦種ノ全廢及縮少ニ關スル殆ト全部ノ問題ハ一般委員會ニ依リ討議セラルルモノナルヘシト述ヘ數字ノ問題討議ヲ後日ニ讓ランコトヲ求メタリ議長ハ茲ニ於テ數字ニ觸レヌシテ第三附屬書ノ「テキスト」ヲ討議ニ附センコトヲ提言シタル處和蘭委員ヨリ一般委員會ノ決定ト後ニ審議ノ結果追加ヲ要スル事項トヲ留保シ條約案ノ文言ヲ其ノ儘採擇センコトヲ提唱シタルカ議長ハ條約案ニ對スル文言上ノ修正ト認メラルルモノ（英提案）ト雖モ内容ニ觸ルル問題ナリトノ見解ヲ有スル向アリ從テ定義ニ關スル修正ハ今之ヲ討議セス一般委員會ノ決定後ニ讓ルコトトスヘク蘇國側ノ排水量ニ關スル提案モ同様取扱ヒタシト述ヘタル處英蘇委員共右ニ贊シ斯クテ本件ハ和蘭提言ノ通條約案ノ文言ノミヲ（排水量ニ關スル部分ヲモ含ム）討議ノ指針トシテ一應採擇セラルルコトナレル次第ナリ

左ニ條約案ニ對照セル各國提案及右委員會ニ於ケル主要國ノ見解ヲ略述スヘシ

二、各國提案及主要國ノ意見
(一) 各國提案

分類	條約案	獨逸案 (Conf. D./C. N./8)	英國案 (Conf. D./C. N./9)	西國案 (Conf. D./C. N./12)	亞國案 (Conf. D./C. N./10)	洪國案 (Conf. D./C. N./11)
主 力 艦	一〇〇〇〇噸ヲ超ユル艦又ハ備砲八吋ヲ超ユル艦 (航空母艦ヲ除ク)	七〇〇〇〇噸以上ニシテ備砲八吋以上ノ艦 一〇〇〇〇噸ヲ超ユル艦 建造セス一二吋ヲ超ユル砲ヲ搭載セス	六〇〇〇〇噸ヲ超ユル艦又ハ備砲五、九吋ヲ超ユル艦 (航空母艦ヲ除ク)	條約案ト同一ニ級ニ分タルイ、八〇〇〇噸ヲ超ユル艦 ロ、八〇〇〇噸以下ノ艦	註一 一九一〇年一月一日以前ニ完成セル艦ニシテ排水量八〇〇〇噸ヲ超ユル艦 超ハ八吋ヲ超ユル砲ヲ	

驅 逐 艦	巡 洋 艦	航 空 母 艦	主 力 艦
一八五〇噸ヲ超エサ ラ艦ニシテ備砲五、 一時ヲ超エサルモノ	一八五〇噸ヲ超ユル 艦又ハ備砲五、一時 ヲ超ユル艦（主力艦 及航空母艦ヲ除ク）、 二級ニ分タル イ、備砲六、一時ヲ 超ユル艦 ロ、備砲六、一時ヲ 超エサル艦	一八五〇噸ヲ超ユル 艦又ハ備砲五、一時 ヲ超ユル艦（主力艦 及航空母艦ヲ除ク）、 二級ニ分タル イ、備砲六、一時ヲ 超ユル艦 ロ、備砲六、一時ヲ 超エサル艦	八〇〇〇噸ヲ超エサ ル艦ニシテ備砲八吋 ヲ超ユルモノ（八〇 〇〇噸ヲ超ユル主力 艦ナキ國ニ對シ）
一二〇〇噸以 下ノ艦ニシテ 備砲四、一時 ヲ超エサルモノ	一二〇〇噸ヲ 超ユル艦ニシ テ備砲四吋ヲ 超ユルモノ	八〇〇〇噸ヲ超 ユル艦又ハ備 砲四、一時ヲ 超ユル艦 (主力艦及航 空母艦ヲ除 ク)	條約案ト同一
			有スルモ一 時巡洋艦甲 級ニ屬スル モノト考ヘ ララルヘク右 艦級内ニテ 代換セラ ル

河用砲艦、「モニター」、巡邏艦	基準排水量			輕水上艦船	
	潛水艦	排水量ノ計測方法 (「メートル」式噸ニ依ラス)	潛水艦ノ排水量	水上艦船ノ排水量 (燃料及豫備鑛水ヲ含マス)	輕水上艦船 一〇〇〇噸ヲ超エサル艦船ニシテ備砲八吋ヲ超エサルモノ (航空母艦ヲ除ク) 二級ニ分タル イ、備砲六、一吋ヲ超ユル艦 ロ、備砲六、一吋ヲ超エサル艦
	最大 六〇〇噸	(「メートル」式噸ニ依ル)		(燃料及豫備鑛水ヲ含ム)	
特ニ河用ノ爲建造セラレタル水上艦ニシテ二五〇噸ヲ超エス且備砲三、一吋ヲ超エサルモノ					

(二) 主要國ノ意見

獨逸

獨逸全權部ハ海軍委員會ニ於テ條約案第五十三條ニ言及スル意思ナキモ「ヴェルサイユ」條約ノ或條項ヲ考慮ニ入ルルニ非サレハ軍縮ヲ成就シ得サルコトヲ信ス

第三附屬書ハ小水雷艇ニ言及セス「ヴェルサイユ」條約ノ結果獨逸ハ二百噸以下ノ艦船ニ非サレハ自由ニ建造シ得サル處倫敦條約ハ制限外艦船ノ最大限ヲ六百噸トセリ即チ六百噸以下ノ艦ハ防禦的性質ヲ有スト認メタリ仍テ獨逸全權部ハ六百噸以下ノ艦船ニ言及スルノ要ナキコトヲ提言ス

獨逸ハ航空母艦ノ定義ヲ與ヘタルモ右ハ一般委員會ニ於テ全廢ヲ決定スルヲ妨クルモノニ非ス第三附屬書ニハ潛水艦ノ定義ナキモ之ヲ加フルノ要ナカルヘキヤ

尙「定義」ヲ第二附屬書トシ特殊艦船ヲ第三附屬書トセンコトヲ提言ス

蘇 國

蘇國ノ提出セル定義ノ主眼ハ海軍ノ眞實ノ縮限ヲ齎スニアリ最近ニ於テハ各艦種ノ隻數ノ増加ヲ見タルモ最も重要ナル

事實ハ質的發達ニシテ質的標準ハ直接ニ定義ノ問題ト關係ス例ヘハ大海軍國ニ於ケル最近ノ趨勢ハヨリ小ナル艦ニシテヨリ大ナル戰闘力ヲ有スルモノヲ建造セントスルニアリ故ニ眞ニ縮少ヲナサントセハ單ニ噸數ヲ制限スルニ止マラス各艦種ノ質的標準ヲ制限セサルヘカラス此ノ點ニ於テ條約案ハ不充分ナリ

英國

英國政府ハ華府及倫敦條約ハ之ヲ一九三六年十二月三十一日迄其ノ儘維持スヘキモノト考フ右兩條約締結ノ交渉ヲ見ハ右條約カ極メテ慎重ニ各國ノ所要及勢力ノ均衡ヲ調整シテ成レルモノナルコトヲ知ラン而シテ細目ニ關スル如何ナル斷片的改正ナリトモ此ノ均衡ヲ覆スコトアルヘシ英國全權部ハ右條約ニ反スルカ如キ修正ノ提案ニ關シテハ海軍委員會カ右ノ事實ヲ考慮ニ入レンコトヲ切望ス本聲明ハ決シテ質的制限ノ討議ヲ防止スル趣旨ニ出ツルニ非サルモ右討議ハ右條約ヲ害セサルコトヲ要ス

英國提案ハ單ナル起草ノ問題ナリ即チ右ハ(イ)項ノ二ヲ削除セントスルニアリ何トナレハ右二ハ八吋ヲ超ユル砲ヲ搭載スル理由ニ依リ(イ)項ニ包含セラル、ヲ以テナリ加之第二編乙章附屬第二表ハ主力艦ヲ二級ニ區分スルコトヲ記載ス

亞 國

條約案ニ依レハ亞國、瑞典及南米諸國ノ所有スル老艦ハ八吋ヲ超ユル砲一、二門ヲ有スル爲右砲カ舊式ニシテ現在ノ主力艦ニ到底匹敵シ得サルニ拘ラス主力艦トナル、尙曲折セル沿岸線及長大ナル河川ヲ有スル國ノ需要ニ應スル「モニタール」艦、沿岸防禦艦等ヲ主力艦トナスコトモ不可ナリ亞國案ノ長所ハ既決定義ヲ修正スルコトヲ避ケタル點ニアリ

第三項 代 換 規 則

第一、概 論

一、審議ノ經過

條約案第十八條ハ「本條約ニ依リ制限セラル、艦船ノ代換ニ關シテハ締約國ハ本章第四附屬書ニ掲ケラル、規則ニ從フヘシ」ト規定ス本問題ハ三月十四日ノ海軍委員會ニ於テ初メテ討議セラレタルカ同日委員會ハ討議ノ手續ニ關スル事項ノミヲ審議シ更ニ翌十五日ノ委員會ニ於テモ大半手續ノ問題ニ時ヲ費シ(註)實質的ニ本問題ヲ討議セルハ十七日以後ノ委員會ニ於テナリキ而シテ「イースター」休暇前即チ十五日及十七日二回ノ討議ハ所謂一般の討議ト云フヲ得ヘク具體的ニ討議ヲナセルハ質的軍縮問題決定後即チ五月三十一日以後ニ屬ス

(註) 十四日ノ委員會ニ於テハ條約案第十八條ト第四附屬書トヲ分離シテ討議スヘシトノ主張(第十八條ハ其ノ儘採擇スルモ第四附屬書ハ定義ノ問題決定迄討議ヲ延期スヘシトスル伊國委員ノ主張ハ大體和、伯、洪、西及蘇委員ノ贊同スル所ナリ)ト第十八條ト第四附屬書トハ分離シ得ストノ主張ト對立シタルカ(將來ノ決定ヲ留保シ第十八條及第四附屬書ヲ討議スルヲ要ス定義ノ問題決定迄第十八條ヲ討議セストセハ定義ノ問題ト關係アル第十四條第十五條及第十六條ニ關スル一般委員會ノ決定ヲモ待タサルヲ得サルコトトナリ海軍委員會ノ事業ヲ遲滞セシムヘシトノ佛國委員ノ主張ハ英及「ユーゴースラヴィア」委員ノ贊同スル所ナリ)議長ハ第十八條及第四附屬書ヲ討議スヘキコトヲ提議シ(伊國委員自説ヲ固執セス)之ト同時ニ同會議ニ於ケル論議ニ鑑ミ次回會議ニ於テハ右第十八條及第四附屬書ヲ先議スヘキヤ將又定義ヲ先議スヘキヤヲ要決ニ附スルコトヲシタシト提言シ右ニ決シタリ尙軍艦ノ建造ハ同一艦種ノ代換ノ爲ニノミ許サルヘシトノ趣旨ヲ蘇國提案ハ海軍委員會ノ權限外ノ問題タルト共ニ現存艦ノ代換ノミヲ認ムルコトトナルヲ以テ海軍ナキカ又ハ完成ノ途中ニアル國ニ不利ナリトテ「ユーゴースラヴィア」及伯國委員ノ反對アリ議長ノ提言ニ依リ本件討議ハ之ヲ後日ニ讓ルコトトナレリ

十五日ノ委員會ニ於テ蘇國委員ハ定義ノ問題決定迄艦船ノ問題討議延期ヲ提言シ西國委員ノ贊成アリタルモ佛國委員ハ艦船問題ハ純然タル專門の問題ニシテ海軍委員會ノ審議シ得ヘキモノナルコト及議事促進ノ見地ヨリ右延期ニ強硬ニ反對シ議長ハ現在ノ決定カ豫備的ノモノナルコトヲ指摘シ本問題ヲ直チニ討議スルニ贊シ且獨、來委員共ニ佛國委員所説ヲ支持シタルヲ以テ蘇國委員ハ其ノ主張ヲ撤回セリ

二、各國提案及主要國ノ見解

茲ニ三月十七日(第五回海軍委員會)前後ニ提示セラレタル各國提案及主要國ノ見解ヲ略述スルニ次ノ如シ

(一) 各國提案

艦種 國名	10,000 Ton 以上	10,000 ~ 3,000 Ton (巡)	3,000 Ton 以下 (驅)	潜水艦	河用砲艦 モニター 巡邏艇
條約案	20	1919-12-31後起工 20 1920-1-1前起工10	1920-12-31後起工 16 1921-1-1前起工12	13	
日 C.N.14	26 (20,000 Ton以上)	20 (20,000 10,000)	16	13	
英 C.N.13	26 (航空母艦ヲ含ム)	20(條約案ノ起工 別ヲ削除ス)	16(條約案ノ起工 別ヲ削除ス)	13	
米	條約案以上トナシ 得				
佛	25	條約案ノ通	條約案ノ通	條約案 ノ通	
伊	25			13	
獨 C.N.4	20 (航空母艦廢止)	20	16	廢止	
蘇 C.N.18	26 (7,000Ton 以上)	20 (7,000 Ton 以下)	16 (1,200 Ton 以下)	15	
西 C.N.12	24	20	16	14	
洪 C.N.11					25
和	西案ヲ支持ス				
支 C.N.16	能ヲ限り低下	20 以上	61		

(二) 主要國ノ意見

帝 國

條約案ハ準備委員會ニ於テ慎重審議ノ結果決定セラレタルモノナルヲ以テ大體之ヲ採用スルヲ會議ノ事務進捗ノ爲可ナ
リト考フ日本全權部ハ主力艦及航空母艦中大型艦ハ二十六年ニ艦齡ヲ延長センコトヲ提議セリ軍備ノ經濟ヲ計ル爲ニハ
此等艦船ハ其ノ本質ヲ失ハサル限リ艦齡ヲ延長スルコト適切ノ策ナリ而シテ現條約案ニ依レハ主力艦モ巡洋艦ト均シク
二十年ヲ代換艦齡トスルモ艦型ノ大小ニ應ジテ差等ヲ附スルコト緊要ニシテ此ノ種大型艦ニ付テハ艦齡ヲ二十六年トス
ルヲ至當ト認ム帝國全權部ハ海軍委員會カ此ノ意見ニ同意センコトヲ切望ス帝國全權部ノ提案ハ艦船ヲ二分シ一ヲ二萬
噸ヲ超ユルモノ他ヲ二萬噸以下ノモノトナスニアリ右區別ハ妥當ナリト考フルモノニ非ス

佛 國

主義ノ問題トシテハ佛國ハ華府及倫敦條約ニ於テ決定セラレタルモノヨリ退步セサルノ義務アリト考フ倫敦條約第二十
三條ハ吾人ニ一屬嚴重ナル制限ヲ採用シ該條約ノ後ヲ擴張スヘキ精神の義務ヲ課スルモノナリ佛國ハ諸提案ヲ此ノ見地
ヨリ觀ント欲ス佛國ハ主力艦ニ關シ艦齡ヲ最大限迄延長セントスル案ニ贊スト雖モ二十五年ヲ最モ適當ト考フ右ニ依リ
造艦費年額ノ二十「パーセント」ヲ減少シ得ヘシ尙日、英、米三國ハ所謂休日ニ依リ艦齡ヲ二十五年ニ延長セリ
巡洋艦ニ付テハ竣工ノ日及建造ノ狀況(大戰ニ際シ)等錯雜セル事項ヲ考慮セサルヘカラス條約案ノ規定ハ精査ノ後ニ
成レルモノナルヲ以テ大ナル理由ナキ限り之ヲ變更スヘキモノニ非ス

潜水艦ニ依リ佛國ハ母國ト北亞弗利加トノ連繫ヲ保タサルヘカラス佛國ハ潜水艦ニ關シ嚴格ナル制限ニ服スヘク努力ス
ヘキモ海軍委員會ハ經濟ノ問題ノミナラス乘員ノ安全ノ問題ヲモ考慮セサルヘカラス

蘇 國

蘇國全權部ハ艦齡ノ延長ニ贊ス何トナレハ右ハ 一、海軍建造術ノ進歩大ナルヲ以テ大戰前定メラレタル艦齡(殆ト

條約案ト同一ヲ増加スルモ戰闘力ニ影響ナク 二、老艦ノ改装ニ依リ戰闘力ヲ増シ且 三、經費ヲ減少スルカ故ナリ

英 國

主力艦及航空母艦ノ艦齡ヲ二十六年トセルハ 一、經費ヲ節約シ得ルコト 二、現代海軍ノ大艦ハ二十六年間ハ就役シ得ルコト及 三、主力艦ハ八年若ハ九年目ニ修理ヲ要スル處三回目ノ修理ヲ爲スヨリ新造スル方經濟的ナルコト等ニ依ルモノナリ

亞 國

二萬噸ヲ分界トシテ艦齡ヲ分ツ日本案ニ賛成スルヲ得ス

米 國

倫敦條約ニ依リ米國ノ主力艦ハ二十八年乃至三十一年ノ艦齡トナルヘシ故ニ主力艦ハ二十年以上ノ艦齡トナスコトヲ得ヘシ艦齡ヲ定ムルニ當リテハ乗員ノ安全ヲ考慮ニ入ルルヲ要ス大戰中ニ急速ニ建造セラレタル艦船ハ安全ノ度ニ於テ缺クル所アルヲ以テ斯ル場合ニハ例外ヲ設クル要アルヘシ

西 國

主力艦巡洋艦ノ艦齡ヲ條約案ヨリ延長セルハ諸海軍ニ條約案ノ規定ヨリ大ナル艦齡ノ艦存スル故ニシテ潛水艦ノ建造術發達セハ西國提案ノ十四年ヨリ更ニ延長シ得ヘシ西國ハ一般ニ艦齡ノ延長ニ賛ス尙「トン」又ハ「メートル」式噸ニ依ルヲ可トスヘシ

獨 逸

驅逐艦ニ關シ條約案ハ竣工ノ日ヨリ十六年ト定ム「ヴェルサイユ」條約ハ進水ノ日ヨリ十年ナリ獨逸全權部ハ一層峻嚴ナル制限ニ賛ス

第二、各 論

一、前 文

第四附屬書一（本附屬書四ニ規定セラルル所ヲ除クノ外本條約ニ依リ制限ヒラルル艦船ハ其ノ「艦齡超過」トナルニ先チ代換セラル、コトヲ得ス）ハ十五日ノ委員會ニ於テ議論ナク採擇セラル

二、艦 齡 起 算 點

第四附屬書二ハ艦船ハ其ノ竣工ノ日後左記年數カ經過シタルトキハ「艦齡超過」トナレルモノト見做サルヘシト規定シ（イ）乃至（ホ）ニ於テ各艦種ノ艦齡ヲ記載ス（註）

（註）五月十三日ノ海軍委員會ハ實の軍縮ニ關スル審議ヲ了シタル後直ニ右第二項ノ審議ヲ開始セリ

獨逸代表ハ本件第四附屬書ニハ同國ニ保有ヲ禁止セラルル艦船ニ關スル規則アルヲ以テ獨逸側ハ第一讀會ニ於テハ意見ヲ述フルコトヲ差控フヘシトテ一般的留保ヲナセリ

上述ノ如ク條約案ハ竣工ノ日ヲ起算點トスル處委員會ニ於テハ右起算點ヲ年トスヘシトノ提言及竣工ノ年ノ一月一日トスヘシトノ提言アリ討議ノ結果目下ノ處條約案ノ通トナシ何等ノ變更ヲ加ヘサルコトニ決定セリ

一、討議ノ經過及主要國ノ意見

（イ） 討議ノ經過左ノ如シ

五月三十一日ノ委員會ニ於テ伊國委員ヨリ第四附屬書二ハ日ヲ起算點トスルモ同附屬書三ハ年ヲ起算點トシ兩者不統一ナル處海軍建造計畫ハ特定日ヲ基礎トセスシテ年ヲ基礎トスルカ故ニ雙方其年トスルコトヲ可トストノ提言アリ之ニ對シ年トスルトキハ十二ヶ月ノ差ヲ生スルコトアルヘシトテ雙方トモ之ヲ日トセンコトヲ主張スルモノアリ（我方ハ意見ヲ留保ス）意見分レタルヲ以テ暫ク條約案ノ儘トスルコトニ決定セルカ六月一日ノ委員會ニ於テ伊國委員ハ其ノ提言ヲ撤回セリ而シテ六月七日ノ第一回小委員會ニ於テハ和、伯委員ノ反對アリタルモ英、米（共ニ請訓中ナリ

ト述フ）佛及我方等條約案維持ヲ主張シ右ニ決シタルヲ以テ小委員會トシテハ條約案維持ヲ確認シタル形トナリタリ

然ルニ六月十日ノ第二回小委員會ニ於テ報告書案ノ審議ニ當リ英國委員ハ竣工ノ年ノ一月一日トスヘシトノ提言ヲナセリ之ニ對シテハ伊、獨委員等ノ賛成アリタルモ米國委員ハ意見ヲ留保シ我方ハ一應反對ノ意見ヲ表示シ瑞典委員ハ寧ロ竣工ノ年ノ十二月三十一日トセシコトヲ提言シ和蘭委員之ニ贊スル等意見分レタルヲ以テ小委員會ハ其ノ報告書ニ條約案ヲ維持スルコトヲ記シ次テ英國側カ修正案ヲ出シタルコト及之ニ關スル各委員ノ意見ヲ記述スルコトトスルニ決シ本件ヲ一應纏ムルコトトセリ

右報告書案ハ第二十一回海軍委員會ニ於テ了承セラレタリ

尙小委員會ニ於テ附屬書第三項ノ年トアルヲ曆年ト改ムルコトニ議論ナク決定シ之又海軍委員會ノ了承スル所トナレリ

(ロ) 本件ニ關スル主要國ノ意見左ノ如シ(註)

(註) 帝國、條約案ヲ維持スルヲ妻ス英國提案ハ新問題ナルヲ以テ連斷ヲ控フヘキモ我提案ノ精神ニ反スルモノト考ヘラルルヲ以テ之ニ贊同シ得ス
英國、華府條約ニ於テハ日ヲ起算點トセルモ倫敦條約ニ於テハ年ヲ起算點トセリ建造計畫上ハ年ヲ基礎トスルヲ可トス但シ細密ニ研究ナラズル迄一應條約案ノ通ニテ可ナリ(五月三十一日委員會ニテ)

伊國ノ提案ハ至當ナリ條約案ニ依レハ艦齡超過ノ日以後ニ非サレハ新艦ヲ竣工シ得サルヲ以テ契約ニ依リ建造セシムル場合工程豫想外ニ進捗シタルトキ之ヲ「スローダウ」ン「スルコトヲ得サル」ノ不便アリ竣工ノ日トセズ竣工ノ年トナスモ決シテ重復保有ノ期間ヲ増加スルモノニ非サルモ右ハ期日ヲ明示セサル點ニ於テ非難ヲ受クヘキヲ以テ英國側ハ「竣工ノ年ノ一月一日」ト修正セントス右案ニ依ルモ三年(若ハ二年)前ニ起工シ得ルコト條約案ト同一ナリ元來本問題ニ付テハ龍骨掘付カ重要ナル事項ニシテ竣工ノ日ニ付テハ實際上實行シ得ルモノナリヤ否ヤニ付攻究スルヲ要ス(過去ニ於テ竣工ノ日ニ關スル規定ハ嚴格ニ遵守セラレシ)英國案ニ依ルモ第一艦ハ見ニ角第二艦以下ハ艦齡ヲ縮少スルモノニ非ス

米國、從來ノ會議ニテ決定セルモノヲ修正スルハ不可ナリ伊國案ハ期間ヲ一ル年延長スルコトナルノ虞アリ現存艦ニ付テハ竣工ノ日ハ明カナリ未成艦ニ付テハ二十年ト云フ如キ長年月後ニ問題トナリ而カモ右期日ハ右未成艦ノ龍骨掘付(各國ニ通知スルコトナリ居ル)ニ依リ明瞭ニ知

ルコトヲ得ルヲ以テ今之ヲ論議シ事態ヲ紛糾セシムルノ要ナシ

英國案ハ問題ヲ紛糾セシムルモノナリ何トナレハ右案ハ建造期間ヲ縮少セントスルモノナレハナリ

佛國、從來ノ會議ニ於テ慎重考究セルモノヲ修正スルハ不可ナリ(六月七日小委員會ニ於テ)英國案ハ條約案ト何等異ナル所ナキヲ以テ之ヲ採用スルニ贊ス瑞典案ハ期間ノ一年延長ヲ意味スルモノナルヲ以テ之ニ贊シ得ス

和蘭、伊國案ハ期間ヲ一ケ年延長スルコトナルノ虞アリ寧ロ竣工ノ日トスルヲ可トスヘシ蓋シ海軍委員會ハ條約案第三十四條ヲ受諾セルヲ以テナリ英國案ハ艦齡ヲ短縮スルモノナルヲ以テ贊同シ得ス之ニ反シ瑞典案ハ艦齡ヲ延長スルモノナルヲ以テ之ニ贊ス

三、主力艦々齡

條約案二(イ)ハ現存艦船ノ代換ノ爲ニ必要ナルコトアルヘキ特別ノ規定ヲ留保シ主力艦々齡ヲ二十年ト定ム

本問題ハ五月十三日ノ海軍委員會ニ於テ討議セラレタルカ(米國ヲ除キ日、英、佛、伊皆二十年若ハ二十六年ヲ提言セルコト前述ノ如シ)米國又二十六年ニ贊シタルヲ以テ何等論議ナク二十年ヲ二十六年ニ改メ其ノ他ハ條約案ノ文言通決定セリ

我方ノ提案ハ二萬噸ヲ超ユル主力艦ヲ二十六年トナスニアリタルモ同委員會ハ瑞典委員ノ所說ニ從ヒ右二十六年艦齡ヲ八千噸ヲ超エサル艦船ニテ八吋ヲ超ユル砲ヲ搭載スル軍艦ニモ適用スヘキコトヲ決定セルヲ以テ主力艦ノ關スル限り右二萬噸ノ限界ハ消滅セル次第ナリ

四、航空母艦々齡

(一) 審議ノ經過

條約案二(ロ)ハ現存艦船ノ爲ニ必要ナルコトアルヘキ特別ノ規定ヲ留保シ二十年ト規定ス

本問題ニ付テハ前述ノ通帝國側ヨリ二萬噸ヲ超ユルモノニ付テハ二十六年ヲ提案シアリタルカ五月三十一日ノ海軍委員會ニ於テ英國委員ハ從來ノ主張タル二十六年ヲ棄テテ二十年トナスヘキ旨ヲ述ヘ佛、伊、米委員之ニ贊シタル結果一萬噸以上ノ航空母艦ニハ二十六年艦齡ヲ適用スヘシト主張セル西國員モ右多數主張ニ贊スルニ至レルヲ以テ議長ハ關係全權部ノ

協議ヲ悠遠スルト共ニ條約案ノ通採擇セルコトヲ認ムト述ヘタリ仍テ帝國側ハ右決定ニ對シ留保ヲ附シ獨逸委員ハ其ノ一般の留保ニ對シ注意ヲ喚起シ（蘇國委員ハ航空母艦ノ廢止ヲ提議セル關係上留保ス）次テ六月七日第一回小委員會席上更ニ我方ノ主張ヲ詳述セルモ列國ヲ承服シ能ハサリシヲ以テ右留保ノ態度ヲ持續セリ（第二十回海軍委員會ハ我方ノ態度ヲ了承セリ）

（二）主要國ノ意見

主要國ノ意見左ノ如シ

帝國、帝國全權部ハ主力艦ニ付テハ艦齡二十六年ヲ受諾シ二萬噸ノ限界ヲ附スル主張ヲ撤回セルモ航空母艦ニ付テハ右限界ヲ維持セサルヲ得ス蓋シ之ニ依リ本會議ノ根本ノ目的タル負擔軽減及軍備ノ縮少ニ資センカ爲ナリ（五月三十一日委員會ニ於テ）

本問題ニ關シテハ其ノ後考慮ヲ重ネタルモ從來ノ態度ヲ變更シ得ス其ノ理由左ノ如シ

（イ）現在ノ華府會議後ノ大型航空母艦ハ其ノ船體機關共ニ主力艦トシテ建造セラレタルモノニシテ其ノ間ニ大ナル差異ナシ故ニ主力艦ヲ二十六年トスルニ於テ大型航空母艦モ同様ナルヲ妥當トス

（ロ）華府會議以後完成セル航空母艦ハ概ネ新式ニシテ其ノ十數年前ニ生レタル巡洋艦等カ今猶二十六年以上ノ使用ニ堪エ居ル實狀ナリ故ニ航空母艦ノ使用方法カ多少主力艦ニ比シ激烈ナルモノアルヘキモ二十六年ノ艦齡ハ適當ナリト信ス

（ハ）高速輕快ナル一萬噸級巡洋艦ノ艦齡ヲ二十年トセルニ拘ラス比較的大型航空母艦ノ艦齡ヲ同様二十年トスルハ不合理ナリ寧ロ主力艦ト同様トスルヲ適當ト信ス本問題ハ之ヲ再討議スルヲ要スト考フ（第一回小委員會ニ於テ）英國、英國ハ曩ニ二十六年ヲ提言セルモ再考ノ結果即チ本省ニ請訓シ且他國全權部ト協議ノ結果他國委員ノ主張スル二十年ヲ受諾スルコト、セリ蓋シ航空母艦ハ輕ク建造セラレ且他ノ軍艦ヨリ高速力ヲ出ス必要上艦船ノ損耗大ナルヲ以

テナリ航空母艦ノ場合ニ於テハ一定噸數以上ト以下トニテ主力艦ト巡洋艦トヲ區別シ得ルカ如ク區別シ得ス寧ロ巡洋艦ニ近シ唯航空母艦ノ排水量ハ縮少ノ可能性アルヘキヲ以テ日本提案ト二十年艦齡トノ差ハ小トナルヘシ

米國、航空母艦ノ任務激烈ナルニ鑑ミ乗員ノ安全ヲ考慮セサルヘカラス航空母艦ハ現行條約上特殊ノ取扱ヲ受ケ居ルモノニシテ速力其ノ他ノ點ニ於テ他艦種ト異ナルカ故ニ艦齡ニ付テモ特別ノ考慮ヲ要ス然ルニ現存法規以外ニ二萬噸ナル限界ヲ設ケ以テ現存ノ艦ノ性能ヲ「コントロール」セントスルハ假令最近小型ノ航空母艦建造ノ傾向アリトハ云ヘ適當ト云フヲ得ス

佛國、佛國委員ハ艦力輕弱ナルコト、高速力ヲ出スノ要アルコト、乗員ノ安全ヲ考慮スルノ要アルコト特ニ構造カ他艦種ト大ニ趣ヲ異ニスル點ヲ強調ス（尙艦型ハ一萬四千噸以下タルヲ得スト述フ）

五、輕水上艦船艦齡

（一）大型輕水上艦船

條約案二ノ（ハ）ハ三千噸ヲ超ユルモ一萬噸ヲ超エサル水上艦船ハ一九二〇年一月一日起工セラレタルカ若ハ後ニ起工セラレタルカニ從ヒ十六年若ハ二十年ノ艦齡タルヘキコトヲ規定ス

本問題ニ付テハ前述ノ通各種ノ提案アリ殊ニ英國側ヨリ起工別ヲ削除センコトヲ提言シタル處五月三十一日ノ海軍委員會ニ於テ我方先ツ此等艦船ハ悉ク二十年ト云フカ如キ長年月就役スルモノトシテ設計建造セラレタルモノニ非ス且本問題ハ倫敦會議ノ際慎重攻究セラレタルモノナルヲ以テ條約案ノ通採擇スヘキ旨ヲ述ヘタル處英國委員ハ倫敦條約ヨリ廣汎ナル條約ヲ作ル場合起工日ニ依ル區別ハ必要ナカルヘシト考ヘタル迄ニテ固執スル次第ニ非スト述ヘ伊、佛、米（米國委員ハ特ニ戰時急造セル艦船ニ付考慮スル要アル旨ヲ述フ）等條約案維持ニ贊シタルヲ以テ條約案ノ通採擇セラレタリ但シ蘇國委員ハ自國案ヲ固執シ右決定ニ對シ留保ス（尙獨逸側ノ一般の留保アルコト前述ノ通）同委員會ハ英國委員ノ所說ニ基キ（ハ）中ニ主力艦及航空母艦ヲ含ムカ如キ誤解ヲ避クル爲「前項ノ艦船ヲ除キ」云云ト修正スルコトニ決ス

(一) 小型輕水上艦船

條約案ノ二ノ(ニ)ハ三千噸ヲ超エサル水上艦船ハ一九二一年一月一日前若ハ其ノ後ニ起工セラレタリヤ否ニ依リ十二年若ハ十六年ノ艦齡タルヘキコトヲ規定ス

本項ハ前項ト同様英國側ニ於テ起工別削除ニ關スル提案ヲ撤回シ且各委員ニ於テ原案維持ニ贊シタルヲ以テ(我方ハ前項同様ノ理由ニ依リ原案維持ヲ主張ス)委員會ハ蘇國留保及(獨逸國一般留保)ノ下ニ條約案通採擇セリ
前項ト同様本項ニ付テモ「前記艦船ヲ除キ」ナル句ヲ挿入シ主力艦及航空母艦ヲ含マサル意味ヲ明カニスルコトトセリ

六、潛水艦々齡

條約案二ノ(ホ)ハ十三年ノ艦齡ヲ規定ス

五月三十一日ノ海軍委員會ニ於テ伊、米(乘員ノ安全ヲ理由トス)、英、佛委員其ノ他條約案ノ十三年ヲ支持シ我方又之ニ贊シタルカ蘇國委員ハ自說ヲ固守シタルヲ以テ蘇國側ノ留保(及獨逸ノ一般留保)ヲ以テ條約案ノ通採擇セラレタリ

七、河川用艦船

洪國側ハ二十五年ノ艦齡ヲ提議セル處五月三十一日ノ海軍委員會ニ於テ伊國委員ヨリ質的軍縮問題ニ關スル報告中ニテ河川艦船問題ハ一般委員會ノ先議ヲ請フコト、ナリ居レルヲ以テ本件又後ニ延期センコトヲ提言シ其ノ通決定ス

八、建造期間

(一) 審議ノ經過

條約案三ハ代換艦船ノ龍骨ハ代換セラルヘキ艦船カ艦齡超過ナル年ノ三年前ニハ据付クコトヲ得ス但シ三千噸ヲ超エサル代換水上艦船ニ付テハ右期間ハ二年ニ短縮セラルヘキ旨ヲ規定ス(右規定中年ナル語ヲ曆年ト改ムルコトニ決定セルコト艦齡起算點ノ部ニテ述ヘタル通ナリ)

建造期間延長方ノ我方提案ハ米、英委員其ノ他ノ贊同ヲ得ス從テ一應條約案ノ通トナシ置キ再ヒ上議スルノ權利ヲ留保シタリ今討議ノ經過ヲ述フルニ左ノ如シ

條約案ノ建造期間ハ大型艦ノ場合不十分ナルヲ以テ我方ヨリ前記規定ノ最後ニ「二萬噸ヲ超ユル水上艦船ノ場合ニ於テハ右期間ハ四年ニ延長セラル」(Conf. D/C.N./14)トノ一句ヲ加ヘンコトヲ提議シ居リタル處六月一日ノ海軍委員會ニ於テ我方ヨリ之カ説明ヲナスヤ米國委員ハ日本提案ニ從ヘハ新舊兩艦ヲ重複保有シ得ル期限不當ニ長期トナルヘシトテ條約案維持ヲ力說シ佛國委員又之ニ贊シタルニ依リ議長ハ本項ハ條約案ノ通一應決定シ置キ私的會談ニテ妥協ヲ見出サンコトヲ希望シタリ(我方受諾ス)越エテ六月七日ノ小委員會ニ於テ我方ヨリ更ニ詳細ナル説明ヲ加ヘ説得ニ力メタル處米國委員ハ依然前說ヲ固持シテ勳カス英國委員又米國委員ノ意見ニ和シタルモ佛國委員ハ我提案ノ理由アルコトヲ認メタリトテ妥協案トシテ二萬噸ヲ超ユル水上艦船ニ付テハ建造期間ヲ三年半トス(佛案ハ廢棄規定ヲ條約案ノ通トナスモノナルニ依リ舊艦ヲ不當ニ長ク保有スルヲ防止シ得ヘシト佛國側ハ説明ス)ヘキコトヲ提言ス

右佛國案ニ對シ米國委員ハ本規程ハ他ノ規定ト密接ノ關係アリ又主義ノ問題トモ云ヒ得ヘキヲ以テ直ニ受諾シ得ストテ考慮ヲ約シ我方又右ニテモ我提案ノ趣旨ヲ達セサルヲ以テ受諾シ得サルモ考慮ヲ重ヌヘシト約シタリ

我方ハ翌八日及九日ノ六國海軍懇談會ニ於テ英米側ト談合セルカ双方共佛國妥協案ナラハ受諾シ得ルモ廢棄期間ヲ四年半ノ代リニ五年トセシコトヲ我方ヨリ提言セルニ對シテハ之ヲ受諾シ得ストノ態度ヲ持シタリ六月十日ノ小委員會ニ於テ我方ヨリ佛國案ハ我方ニ於テ慎重考慮セルモ同案ハ代換艦船ノ龍骨据付ヨリ艦齡超過艦ノ廢棄ニ至ル期間ニ於テ條約案ト何等異ナル所ナキヲ以テ此ノ期間ノ延長ヲ希望スル我方トシテハ之ニ贊シ得ス唯佛國案ニ加フルニ第五附屬書第一款(イ)末行ニ「右新艦カ二萬噸ヲ超ユル水上艦船ナルトキハ此ノ期間ハ五年ニ延長セラル」トノ一句ヲ加フルコトヲ條件トシテ佛國案ヲ受諾シ得ヘキコトヲ正式ニ聲明セル處英國ハ佛國案ハ受諾シ得ルモ廢棄期間延長ニハ贊シ得ストノ態度ヲ維持シ米國委員又廢棄規則ニ關スル條約案ノ變更ニハ米國ハ到底贊シ得スト斷言シタリ

斯クテ小委員會ノ報告ニハ我方ノ提案及各委員ノ意見ヲ記述スルコトナレルカ我方ハ我原案及我妥協案ノ双方共小委員會ノ受諾シ得サルハ遺憾ナリトシ後ニ又本問題ヲ上議スルノ權利ヲ留保シタリ

尙蘇國委員ハ佛妥協案ニモ反對ナリトテ條約案ノ維持ヲ主張セリ

六月十一日海軍委員會ノ了承セル報告書ハ此ノ經過ヲ略述セルモノナリ本問題ニ關スル我方及主要國ノ意見左ノ如シ

(二) 主要國ノ意見

帝國、大型艦建造ニ當リテハ造艦技術並ニ經濟ヲ考慮ニ入ル、ヲ要ス又陸奥、長門、「ネルソン」、「ロドネー」、「メリランド」、「コロラド」等最近主力艦ノ建造ニハ三年半乃至五年ヲ要シタリ之建造期間三年トアルヲ四年ト修正セントスルノ論理的ナル所以ナリ(六月一日海軍委員會ニ於テ)

華府會議後ノ主力艦力建造ニ四ケ年内外ヲ要シ最近日本ニ於テ建造セル一萬噸巡洋艦スラ猶四年内外ヲ要シ居ル次第ニテ主力艦ヲ三ケ年ニテ建造スト云フカ如キハ工業能力上技術上及實際上至難ナリ我提案ハ全ク此ノ考慮ヨリ出テタルモノニシテ重複保有等ノ考ハ全然ナシ又倫敦條約代換規則ハ巡洋艦、驅逐艦等ニ對スルモノヲ規定シタルモノナルカ之ヲ全然華府條約ノ主力艦ト同様トセルハ建造期間延長ノ趣旨ヲ認メタルモノナリ故ニ主力艦ノ建造期間ハ華府條約ヲ延長考慮スルヲ至當トスヘク又巡洋艦ト大型主力艦トノ間ニ差等ヲ設ケサルコトハ不合理ナリ(六月七日小委員會ニ於テ)

米國、條約案ノ規定ニ依レハ新舊兩艦重複保有ノ期間ハ普通六ケ月最長九ケ月トナル右ハ新艦ノ建造遲延ノ場合ヲ斟酌セサルモノナルカ此ノ場合ニ於テハ日本提案ニ依リ重複保有ハ平均九ケ月最長十五ケ月トナルヘク若シ新艦建造遲延セル場合ヲ考慮スレハ平均重複ハ一ケ年最長二ケ年ニ延長セラルヘシ現規定ニ依ル四ケ年半ノ期間ハ普通遲延ノ場合ニ充分餘裕アルモノニシテ異常ナル遲延ノ場合ハ規定シ得ヘキモノニ非ス

曩ニ條約案第二十條(他國ノ爲ニ建造中ノ軍艦ノ引渡)ニ付討議セル際委員會ハ原案維持ニ決シタルカ右案文ハ全ク偶發的事項ヲ規定セルモノナリ然ルニ日本提案ハ重複保有ヲ常規化セントスルモノニシテ米國トシテハ絕對ニ條約案維持

ヲ必要ト考フ

英國「フッド」、「ロドネー」、「ネルソン」等ノ建造ニ長期間ヲ要セルハ大艦且最初ノ建造ナリシ爲ニシテ海軍休日後ハ建艦ハ健實トナルヘク且艦型ノ縮少モ豫見シ得ヘシ加之建艦ニ長期ヲ費スハ不經濟ナル點モ考慮ノ必要アリ英國ハ現規定ニテ建艦ヲ處理シ得ト考フ

九、起工ノ遲延及亡失ノ場合ノ代換

條約案三ノ第二項代換艦船ノ起工ノ遲延ノ場合代換ノ權利ヲ失ハサルコト及四ノ亡失ノ場合直ニ代換シ得ル旨ノ規定ハ何等ノ議論ナク六月一日ノ委員會ニ於テ採擇セラル

一〇、代換規則追加ニ關スル英國提案

英國側ハ第四附屬書五トシテ「代換濟艦船ハ第五附屬書ニ依リ處分セラルヘシ」(Conf. D/C.N./6)トノ一項ヲ加ヘンコトヲ提案セルカ右ハ「本條約ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外」ナル句ヲ加ヘ且第二十二條ニモ同様ノ修正ヲ加ヘ採擇セラレタリ其ノ經過左ノ如シ

六月一日ノ海軍委員會ニ於テ英國委員ハ右ハ起草上ノ提案ニシテ華府條約第三條倫敦條約第二編第一附屬書第二款ノ規定ト同様代換ト處分トノ連結ヲ付ケントスルニ過キスト説明セリ

然レトモ右ハ艦齡超過艦ノ保有ヲ認メサルコトナルノ虞アルヘキニ依リ我方ハ艦齡超過ノ艦船ハ第一線艦船ニ對抗スルコト能ハサルハ明カナルモ沿岸ノ哨戒港灣ノ防禦ニハ利用スルヲ得ル處會議ハ今猶重要問題ニ觸レスシテ各國ノ兵力量ニ付テハ何等決定セラルル所ナキ狀況ナルヲ以テ特定國カ果シテ艦齡超過艦ヲ必要トスルヤ否ヤ未タ不明ナリ或ハ各國共ニ艦齡超過艦ヲ保有スルコトナクシテ相互ニ満足シ得ル如キ協定ニ達シ得ルヤモ知レサルモ若シ各國保有ノ兵力量ニ相當大ナル差等ヲ生スルカ如キ場合ヲ見タリトセハ劣勢ナル海軍力ヲ割當テラレ他ノ強大ナル海軍ニ對シテ自國ノ安固ニ關シ不安ヲ感スル如キ國ニ對シテハ攻勢作戰ニハ適セサルモ自國沿岸防禦ニ若干ノ效果ヲ有スル如キ質及量ニ於テ

適當ナル艦齡超過艦ヲ保有セシメ以テ其ノ不安ヲ緩和セシムルコトハ其ノ國ニトリテモ又軍縮會議ノ成功ノ爲ニモ必要ナリ本問題ハ今後討議シ得ヘキヲ以テ今海軍委員會カ決定ヲナス時宜ニ適セスト主張シ保有量ノ問題ヲ審議セサル此ノ際英國案ヲ受諾シ得サルコトヲ主張セル處議長ハ本問題ヲ保有量ノ問題ト關連セシメサルコトヲ希望シ結局第五附屬書討議ノ際迄審議ヲ延期スルコトナレリ然ルニ右問題ハ六月六日我方ト英國全權部トノ協議ニ依リ「本條約ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外」ナル一句ヲ加フルト共ニ條約案第二十二條ニモ同様ノ一句ヲ插入スルコトトシ妥協ニ達シ六月七日及十日ノ小委員會ニテ採擇セラレ十一月ノ海軍委員會ニテ了承セラレタリ

一、代換規則ニ關スル一般規定

條約案第十八條ハ代換ニ關シテハ第四附屬書ノ規則ニ從フヘシトノ趣旨ヲ規定ス第四附屬ノ審議ヲ了セル海軍委員會ハ何等議論ナク六月一日之ヲ採擇セリ

第四項 艦船ノ處分規則（第五附屬書）

一、前 文

第五附屬書前文ハ論議ナク採擇セラル（註）

（註）陸揚セル兵器ノ處分問題ニ關スル獨逸提案（Conf. D/C.N. 2）ハ獨逸委員ノ要請ニ依リ審議ヲ延期ス

二、廢棄セラルヘキ艦船（第一款）

（一） 廢棄期間延長ニ關スル英國提案

六月一日ノ海軍委員會ニ於テ英國委員ハ現存第一款（イ）ノ前ニ新（イ）トシテ「本條約第二十二條ニ依リ廢棄セラルヘキ艦船ハ本款（ロ）ニ從ヒ本條約效力發生ノトキヨリ十二ヶ月以内ニ戰闘任務ニ堪エサルモノトシ右效力發生ヨリ二十四ヶ月以内ニ確定的ニ廢棄セラルヘシ」（Conf. D/C.N. 6）トノ一項ヲ加ヘンコトヲ提議シ右ハ單ナル起草上ノ提案ニシテ華府及倫敦條約ニ於ケルト同様條約發效ト同時ニ廢棄セラルヘキ艦船（相當多數アルヲ常トス）ニ對シ代換ノ爲廢棄セラル

ルモノニ比シ廢棄期間ヲ延長セントスルモノナリト説明セリ米國委員ハ之ニ對シ條約案第二十二條ハ右兩者ノ場合ヲ包含ストモ考ヘ得ラルルヲ以テ英案中其ノ部分ハ改文ヲ要スヘシト述ヘ其ノ結果英案ヲ「條約效力發生ノ際保有量ヲ超過スルモノトシテ廢棄セラルヘキ艦船ハ云々」ト改文スルコトトナリ右改文ノ上英案ハ採擇セラル

右ノ結果（イ）（ロ）（ハ）ハ順次繰下クルコトナレリ

（二） 廢棄期間延長ニ關スル帝國提案

舊（イ）項最後ニ「右新艦カ二萬噸ヲ超ユル水上艦ナルトキハ此ノ期間（四年半）ハ五年半ニ延長セラル」（Conf. D/C.N. 14）（本項ハ帝國側ニ於テ五年半ノ代リニ五年トセルコト建造期間延期問題ノ際述ヘタル通ナリ）トノ帝國提案ニ付我方ハ右提案カ第四附屬書三ニ關スル提案ノ當然ノ歸結ニシテ大型艦ノ建造ニ四年ヲ要ストノ意見ヲ變更シ得サルヲ以テ本項提案ヲモ變更スルヲ得スト述ヘタル處米國委員又前述ノ通我案ニ反對ナル旨ヲ述ヘ結局第四附屬書三ノ場合ト同様問題ヲ延期スルコトナレリ

三、第一款乃至第四款

第一款（ロ）（獨逸提案ハ後廻シ）及（ハ）第二款、第三款（獨逸提案ハ後廻シ）及第四款ハ條約案ノ儘採擇セラル

四、練習用ノ爲保有セラルヘキ艦船（第五款）

（一） 前 文

第五款（イ）項ハ其ノ儘採擇セラル

（二） 非戰闘用トナスノ條件

（イ） 舷側裝甲帶ノ撤去

第五款（ロ）項（三）舷側裝甲帶ノ撤去ニ關シ佛國側ハ右裝甲帶ノ撤去ハ不經濟ナルノミナラス他ノ物件ノ撤去及本款（イ）ノ如キ精神的保障アルニ依リ不必要ナリトテ右條項削除ヲ提案（Conf. D/C.N. 33）セリ右提案ハ米國委員ノ求ニ依

リ討議ヲ延期シ(六月一日委員會)六月七日ノ小委員會ニ於テハ「リスト」ヲ出シテ審議ヲ續行スルコト、セルモ十日ノ小委員會ニテハ「リスト」ハ保有量決定後ニ非サレハ提出シ得ストノ意見ニ落着セリ

(註) 第一回小委員會ノ際米國委員ハ裝甲ノ撤去カ非戰艦用トスル最重要部分ナルコトヲ右撤去ニハ大ナル費用ヲ要スルモノニ非サルコトヲ述ヘ佛國案ニ反對シ英國委員又同意見ヲ表示セリ

佛國委員ハ戰艦條約ハ精神の保障及司令塔撤去ノ二件ヲ規定スルニ過キス然ルニ倫敦條約ハ右ノ外更ニ數箇ノ條件ヲ課シ峻嚴ニ過ク且主力艦ハ艦齡二十年ヨリ二十六年トナリシヲ以テ斯ル峻嚴ナル規定ヲ設ケルノ要ナシ更ニ裝甲ハ今後船體ト一體トナシ建造スルニ至ルコトアリ得ヘク其ノ際ハ裝甲ノ撤去ハ不可能ナリト述ヘタリ右佛國案ニハ和、獨(裝甲ヲ建造上船體ト一體ヲ成スノ點ニテ)ノ贊成アリタリ

(ロ) 發動機推進艦ニ關スル佛國提案

第五款(ロ)ノ一主力艦ノ(五) 最高速力十八節ヲ得ルニ要スル數ヲ超ユル一切ノ汽罐ノ撤去又ハ船内ニ於ケル損壞ニ關シ佛國側ハ發動機推進艦ニモ右規定ヲ適用スルヲ要ストノ趣旨ヨリ右(五)中「汽罐」トアル所ニ「發動機」ト入レ他ハ全然同文ノ一項ヲ右(五)ニ追加セントコトヲ提案セリ(Conf. D/C.N./33) 右ハ獨逸委員ノ要請ニ依リ討議ヲ延期スルコトナレリ(六月一日委員會)佛國側ハ(ロ)二ノ(四)(即チ主力艦以外ノ水上艦船ノ汽罐ノ半數ノ撤去)ニモ發動機推進艦ニ關シ右ト同趣旨ノ規定ヲ設クヘシト提案セル處(Conf. D/C.N./33) 右文言ハ英國委員ノ所說ニ從ヒ「馬力ヲ原計畫ノ二分ノ一ニ減少スルニ要スル汽罐又ハ發動機ノ一部分ノ撤去若ハ艦内ニ於ケル損壞」ト修正セリ(Conf. D/C.N./36)

(三) 練習艦ニ關スル和蘭提案

和蘭側ハ本款(ロ)ト(ハ)ノ間ニ「本條約ノ效力發生以前ニ練習艦ニ變更セラレタル艦船ハ變更セラレタル當時ノ狀態ニ於テ維持スルヲ得」トノ一項ヲ挿入セントコトヲ提案セリ(Conf. D/C.N./5) 各國ノ練習艦ハ概ネ老齡艦ニシテ其ノ狀態ハ本款ノ規定ニ適合セス然ルニ本款ノ規定ニ適用セシメントスルトキハ無用ノ經費ヲ要スルノミナラス時ニ相當長ク練習艦トシテ使用シ得サラシメ酷ニ過クヘシト云フヲ提案ノ理由トス右提案ニハ主義トシテ異議ナカリシモ何所ニ挿入スヘキヤニ付疑問アリシ爲前記佛國案等審議ノ際ニ再ヒ討議スヘキコトニ決定セリ

練習艦ニ關スル小委員會報告ノ一節左ノ如シ

本問題ノ審查ハ軍縮會議ヲ進行シ海軍條項ノ全體(特ニ考慮ノ要アル艦種ニ付海軍條項全體)ノ見据付クニ至ツテ初メテ有益ニ行ハルヘシ然レトモ練習艦タリ得ヘキ艦種ノ詳細竝ニ和蘭提案審議ニ資スル爲現存練習艦ノ「リスト」ヲ提出スルヲ得策ト考フ

(註) 六月一日海軍委員會ニ於ケル意見左ノ如シ

英國、和蘭案ニハ確定時日ナシ同案ハ固定艦ニ非サルヲ以テ第二十三條中ニ挿入スルヲ得ス 特殊艦船ハ戰爭ニ從事スル艦船ナル上代換シ得サル艦ナルカ故ニ本件練習艦トハ性質ヲ異ニス本件ハ「リスト」ヲ出シ改定スルヲ可トスヘシ

米國、和蘭案ハ期日正確ナラス其ノ儘ニテハ濫用ノ危險アルヘシ本件ハ之ヲ特殊艦船トシテ取扱フヲ要ス 我方、特殊艦船トシテ取扱フヘシ

五、固定練習用施設及「ハルク」

條約案第二十三條ハ一九三〇年四月一日前ニ固定練習用施設又ハ「ハルク」トシテ使用セラレタル艦船ハ航海不能ノ狀態ニテ保有スルコトヲ得ル旨ヲ規定ス

本條ハ第五附屬書練習艦ニ關スル和蘭提案ト關係アリ第十七回海軍委員會ノ席上論議セラレタル所ナルカ六月三日ノ海軍委員會ハ右兩者ヲ連絡スルコトハ單ナル起草上ノ問題ナリト認メ小委員會ニ附託スルコトトセリ然ルニ小委員會ハ練習艦ノ問題ノ審議ヲ延期スルコトトシ海軍委員會モ之ヲ了承セルヲ以テ本件又審議ヲ延議セララルニ至レリ

第五項 一般規定其ノ他

第一、條約規定ノ制限ヲ超ユル艦船

條約案第十七條ハ「本條約ニ依リ定メラレタル排水量又ハ武裝ニ關スル制限ヲ超ユル艦船ハ何レノ締約國モ之ヲ取得シ又ハ之ヲ建造シ建造セシメ若ハ其ノ法域内ニ於テ之ヲ建造ヲ許スコトヲ得ス」ト規定ス海軍委員會ハ三月十四日ノ會議ニ於テ本問題ヲ討議シ條約案規定ノ通採擇セリ

(註) 本條ニ對シテハ二個ノ提案アリ一ハ蘇國案ニシテ他ハ獨逸案ナリ蘇國案ハ同國ノ主張スル代換艦、艦種ノ定義其ノ他ニ關スル制限ヲ超ユル如何ナル艦モ自國領域内ニ於テハ勿論外國工廠ニ於テモ建造セシメサルコトヲ規定シ(Conf. D. 55 第十七條)獨逸案ハ艦種、排水量及武器ニ於テ條約規定ヲ超ユル艦種云々(以下條約案ト同一趣旨)ト規定シ特定艦種ノ全廢ヲ想定ス(Conf. D/C.N/4)

英國委員ハ本條ハ華府及倫敦條約ト同一規定ニシテ満足ニ適用セラレ來リタルコト特定艦種全廢ニ決セハ本條、文言ハ修正ノ要アルヘキモ全廢ニ決スヘキヤ否ヤ不明ノ今日本條ヲ修正セントスルハ徒勞ニ終ラサルヤ又蘇國案ハ「取得」ナル觀念中ニ包含セラルヘキコトヲ述ヘ原案維持ヲ主張シタル處米伊、佛委員何レモ華府倫敦條約ノ變更ヲ不可ナリトシテ原案維持ニ贊成シ我方又原案維持ノ提案ヲ支持シタルヲ以テ蘇國委員ハ會議ノ多數力「取得」ナル語カ外國工廠ニ於ケル建造ヲモ含ムモノナリトノ見解ナルコトヲ明白ニ記錄シ留ムルニ於テハ原案維持ニ異議ナキコトヲ述ヘ右ニ決シタルモノナリ尙獨逸委員ハ當初ヨリ一般委員會力特定艦種ノ全廢ニ付決定スルトキ再ヒ獨逸提案提出ノ權利ヲ留保シ大勢順應ノ態度ヲ持シタリ

第二、戰爭ノ場合他國ノ爲建造ノ軍艦ノ使用

條約案第二十條ハ締約國ハ戰爭ニ從事スル場合ニ於テハ其ノ法域内ニ於テ他國ノ爲ニ建造中ノ艦船又ハ其ノ法域内ニ於テ他國ノ爲ニ建造セラレタルモノ引渡ヲ了セサル艦船ヲ艦船トシテ使用スルコトヲ得サル旨ヲ規定ス本問題ハ三月十四日ノ海軍委員會ニ於テ討議セラレ原案ノ通決定ヲ見タリ

(註) 英國委員ハ條約案中戰爭開始後締約國ニ義務ヲ課スル海軍條項ハ本條ノミナルコト及自己ノ存立ヲ賭シテ戰フトキ當リ此種軍艦ヲ使用シ得サルノミナス之ヲ他國ニ引渡スヘシト云フカ如キハ人情ニ反スル規定ナルコトヲ理由トシテ之ヲ削除ヲ提言セリ(但シ同委員ハ其ノ提言ノ稍々過激ナルヲ自認シ又英國力華府條約中ノ同様ノ規定ニハ拘束セラルコト勿論ナルモ將來ノ條約中ニ於テ反覆セラルルヲ好マスト附言セリ)議長ハ之ニ對シ條約案中戰爭開始後締約國ニ義務ヲ課スルハ本條ノミニ止マラス他ニモ少カラストテ化學戰一定武器ノ製造及右武器使用人員ノ教育ニ關スル規定ヲ擧ケ右提言カ條約案ノ一般構成ヲ越脱スルモノナリト述ヘ米國委員ハ本條ヲ削除セハ關係國兵力ノ割合ニ不則ノ變化ヲ招到スヘシトテ英國提案ニ反對シ我方ハ米國委員ノ所說ニ贊シ本條ハ軍縮準備委員會ノ採擇セル重要條項ノ一ニシテ之ヲ削除スルハ條約ニ打擊ヲ與フルモノナリトテ英國提案ニ反對シ佛國委員ハ軍縮ノ精神ニ副ヘル既存條約ノ條項ハ之ヲ尊重スルヲ要スヘク又本條ヲ削除セハ造船國カ各種ノ手段ヲ以テ出來得ル限り多クノ注文ヲ引受ケ戰時ニ至リ條約規定以上ニ大ナル軍備ヲ有スルニ至ルヘシトテ英國委員カ日米委員ノ所言ヲ容レンコトヲ希望シ伊國委員ハ米國委員ト同一ノ趣旨ヲ述ヘテ原案維持ヲ主張セルヲ以テ英國委員ハ其ノ提言ヲ撤回セリ

第三、軍艦讓渡

條約案第二十一條ハ各締約國ハ贈與、賣却又ハ如何ナル讓渡ノ形式ニ依ルヲ問ハス其ノ艦船カ外國ノ海軍ニ於テ艦船トナ

リ得ルカ如キ方法ニ依リ之ヲ處分セサルヘキコトヲ約スル旨ヲ規定ス本條ハ三月十四日ノ海軍委員會ニ於テ議論ナク採擇セラレタリ

(註) 本條ニ對シテハ蘇國側ヨリ大同小異ノ提案アリタルモ同國委員ヨリ本條維持ニ反對セサル旨ヲ述ヘタリ尙議長ハ芬蘭委員ノ所說ニ對シ本條ハ外國ノ海軍ニ讓渡スル場合ノ規定ニシテ聯盟ニ對スル讓渡ヲ禁止スルモノニ非ストノ趣旨ヲ述ヘタリ

第四、軍艦建造ノ通知

條約案第三十四條ハ制限外艦船ヲ除キ軍艦建造若ハ竣工ニ關シ細目ノ通報ヲ聯盟事務總長ニ送付スヘキ旨ヲ規定ス本條ハ六月三日ノ海軍委員會ニ於テ一定條件ノ下ニ採擇セラレタリ(註)

(註) 蘇國委員ハ蘇聯邦ハ聯盟國ニ非サルヲ以テ事務總長ニ通報シ得サルコト及公表ノ方法ニ依リテ軍縮ヲ實行シ得サルコトヲ述ヘ「アブステンション」シ伊國委員ハ制限外艦船トハ何等見ルヘキ攻撃力ヲ有シ得サル艦船ヲ意味スレトノ了解ヲ以テ本條ヲ受諾スト述ヘ獨、洪、芬各委員ハ右伊國聲明ヲ支持ス

第五、人員問題

海軍人員問題ハ陸軍委員會ニ於ケル審議ノ結果ヲ待ツコトナリ居リシ處陸軍委員會分科會ハ人員ニ關スル報告書(Conf. D./C.T./Experts/2)ヲ作成シタルヲ以テ海軍委員會ハ三月十七日ノ會議ニ於テ海軍人員問題ノ見地ヨリ陸軍委員會ト同様ノ措置ニ出ツヘキコトニ決シ其ノ幹部會ヲシテ日、英、米、獨、佛、伊、蘇、亞及西九委員ノ協力ヲ以テ人員ノ解釋ニ關スル質問集ヲ作成セシムルコトニ決シタリ

右幹部會ハ同日午後會合シ討議ヲ行ヒ結局前記陸軍委員會分科會報告ヲ基礎トシ之ヲ修正増補シタル一ノ質問集(Conf. D./C.N/15)ヲ作成シ三月二十二日各全權部ニ配布シ回答ヲ求メタリ右質問集ニ對スル各國側ノ回答(我方ハ四月七日回答セリ)ヲ集録セル文書(Conf. D./C.N/32)ハ七月中旬完成セルモ海軍委員會ハ未タ之ニ關シ審議ヲ開始スルニ至ラス